

令和元年度

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体の選定及び
支援業務（事前調査・里山づくりワークショップ実施）

報 告 書

令和2年3月

公益財団法人 兵庫丹波の森協会
丹波の森研究所

目 次

1	業務の目的および内容	1
2	事前調査	3
3	里山づくりの進め方	5
4	里山ワークショップ	7
4-1	ふるさと和田里山づくり協会	7
4-2	上板井自治会	18
4-3	八幡共有山組合	23
4-4	岩崎自治会	27

1 業務の目的および内容

(1) 業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

(2) 業務内容

1) 事前調査

- 応募のあった以下の里山づくり活動団体（以下、活動団体）に対し、活動方針、活動する里山の状況、活動内容等についてヒアリングにより調査し、その結果をとりまとめる。
- ヒアリング結果を考察し、各団体への支援方策を明確にする。

- 応募のあった里山づくり活動団体

	団体名（応募順）	活動区域	面積（ha）
1	上板井自治会	丹波篠山市上板井	24.9
2	八幡共有山組合	丹波篠山市杉	37.3
3	岩崎自治会	丹波篠山市岩崎	
4	ふるさと和田里山づくり協会	丹波市山南町和田	25.0

- 位置図



2) 選考委員会

- ・丹波の里山づくり促進事業実行委員会が開催する選考委員会に選考委員として出席し、活動団体の審査および選考にかかる業務に従事する。

3) 里山づくりワークショップ

①里山づくりの進め方マニュアルの作成

- ・活動団体アドバイザー（以下、アドバイザー）による活動団体への支援を円滑に進めるため、以下に示す内容についてアドバイザー向けのマニュアルを作成する。
 - ア) 各活動団体が定める「里山づくりの方針」のまとめ方
 - イ) 各活動団体が実施するワークショップの進め方

②里山づくり協議会の設置

- ・各活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下、協議会）」を設置させ、アドバイザーの支援を受けながら持続的に活動が可能な体制を整備する。

③アドバイザー業務

- ・現地調査及び活動団体へのヒアリングを実施するとともに、次年度に樹立する里山整備計画を策定するためのワークショップを開催し、その内容を取りまとめる。

④現地調査の事前準備

- ・活動予定の里山の林相等について、既存資料をもとに対象森林の現況図等を作成する。

⑤現地調査及び活動団体へのヒアリング

- ・活動団体の同行のもと、活動予定地の現地調査を1団体あたり最低2日実施し、森林の概況を明らかにする。その際、森林の林相、森林整備に使用可能な林道や森林作業道の有無、必要な森林整備の内容について活動団体と共に確認し、ワークショップに必要な里山活動を考えるための区域図等を作成する。

⑥ワークショップの開催

- ・調査結果をもとに、活動団体を対象とした里山づくりの方針を決定するためのワークショップを開催する。実施回数は2回とし、その内容を取りまとめ、次年度に里山整備計画策定のための基礎資料として整備する。

2 事前調査

(1) ヒアリング結果

応募団体 (地区)	ヒアリング内容	評価
ふるさと和田 里山づくり協会 (丹波市)	<ul style="list-style-type: none"> ・岩尾城跡（石垣、堀、井戸など）、校山園（学校林）、小新屋観音、石金山（登山、瀬戸内海を眺望） ・森林の手入れ不足 ・登山道や公園の清掃等の維持管理に取り組む。 <p>【目指す里山づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①歴史愛好家や登山愛好家が訪れる観光拠点 ②遊べる森林環境 ③登山道の維持管理 <ul style="list-style-type: none"> ・組織づくり（新規に和田里山づくり協会を立ち上げ、財産区の振興会と自治会長等で構成） ・活動継続のための取組 	<p>多くの関係者の意向を取りまとめる能力が必要 協会設立後、主要メンバーからヒアリング実施し、支援していく。</p>
上板井自治会 (丹波篠山市)	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会有林（広葉樹、一部人工林）、11月～3月活動 ・里山彩園事業（市）：シイタケづくり、薪など <p>【目指す里山づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①木の駅プロジェクト活用：搬出方法、機材等が課題 ②危険木の伐採・除去 ③里山づくりを通じたまちづくり、世代間交流、女性参画の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・木の駅プロジェクト活用の実効性を高める ・女性の参加促進 ・楽しんで参加できる仕組みづくりなど 	<p>今後の活動内容の明確化とともに里山活動を通じたまちづくりや女性参画の仕組みづくり支援が必要。</p>
八幡共有山組合 (丹波篠山市)	<ul style="list-style-type: none"> ・登山、ハイキング客が多い ・手入れ不足による森林の防災機能の低下が危惧される ・補助事業（住民参画型森林整備）：作業道整備、間伐等 <p>【目指す里山づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①安全で楽しめる森林環境の維持管理（林業作業道の補修管理）、マツタケ再生（収益） ②登山などの環境整備：休憩スポット等の整備など <ul style="list-style-type: none"> ・森林学習会などの開催・組合員（権利者）による活動組織の立上げ ・安全な散策道（作業道）の維持管理 ・地域住民等への開放：ハイキングや学習会の開催など 	<p>活動内容の明確化（年間活動計画の作成）の支援や安全対策の支援が必要。また、楽しい森づくりのノウハウを紹介など。</p>
岩崎自治会 (丹波篠山市)	<ul style="list-style-type: none"> ・手つかず状態、人工林が多い（40～50年生） ・マツタケ山（少ないがある） ・その他は広葉落葉樹林 ・自治会として若い世代も巻き込んで活動したい。 <p>【目指す里山づくり】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①隣接する集落と連携した森林経営計画の推進（宇土～岩崎～谷山） ②四季を感じる里山づくり ③自治会及び新居住者とともに活動組織を立ち上げ <ul style="list-style-type: none"> ・組活動組織の立上げ ・広く参加者を引き入れ、活動を継続するための仕掛けづくり ・砂防ダム整備に合わせた周辺環境整備の推進 	<p>将来に向けて隣接集落の連続する人工林を対象として森林経営計画の支援が望まれる。そのための支援も必要。 まずは、活動組織づくりや地域での活動内容の明確化を支援。</p>

(2) アドバイザーの選定

①ふるさと和田里山づくり協会（丹波市山南町）

- ・財産区振興会と自治会長等で構成される「ふるさと和田里山づくり協会」を立ち上げ、今後活動を組織的に進める予定である。
- ・森林整備や里山づくりの技術的なサポートとともに、組織づくりや組織運営に対する支援が求められる。
- ・総合的な活動支援が求められることから、アドバイザーとしては森林インストラクターで丹波の森研究所主任研究員の門上保雄氏とした。

②八幡共有山組合（丹波篠山市味間）

- ・手入れ不足による森林の防災機能の低下が危惧されている一方、登山、ハイキング客が多く安全面とレクリエーション利用面の両面からの支援が必要。
- ・また、当該地区では県補助事業の住民参画型森林整備（作業道の整備、間伐など）を受けており、その時の状況も熟知されている森林インストラクターの維田浩之氏とした。

③岩崎自治会（丹波篠山市城南）

- ・手つかず状態の人工林（40～50年生）が多い。こうした森林が隣接する集落（宇土～岩崎～谷山）と連続しており、将来的には隣接した集落と連携した森林経営計画の推進が望まれる。
- ・活動組織としては、今後、自治会の若い世代や新居住者とともに活動組織を立ち上げ、四季を感じる里山づくり目指している。
- ・将来的に森林経営計画の推進を視野に入れて支援できるアドバイザーが望ましいことから、森林関係の支援事業に通じている森林インストラクターの維田浩之氏とした。

④上板井自治会（丹波篠山市西紀）

- ・木の駅プロジェクト活用の実効性を高めるための方策の検討や、里山づくりを通じたまちづくり（世代間交流、女性参画の推進など）を進めることが望まれる。
- ・木の駅プロジェクトの制度をはじめ、森林関係の支援事業に通じている森林インストラクターの維田浩之氏とした。

3 里山づくりの進め方

(1) ワークショップの進め方

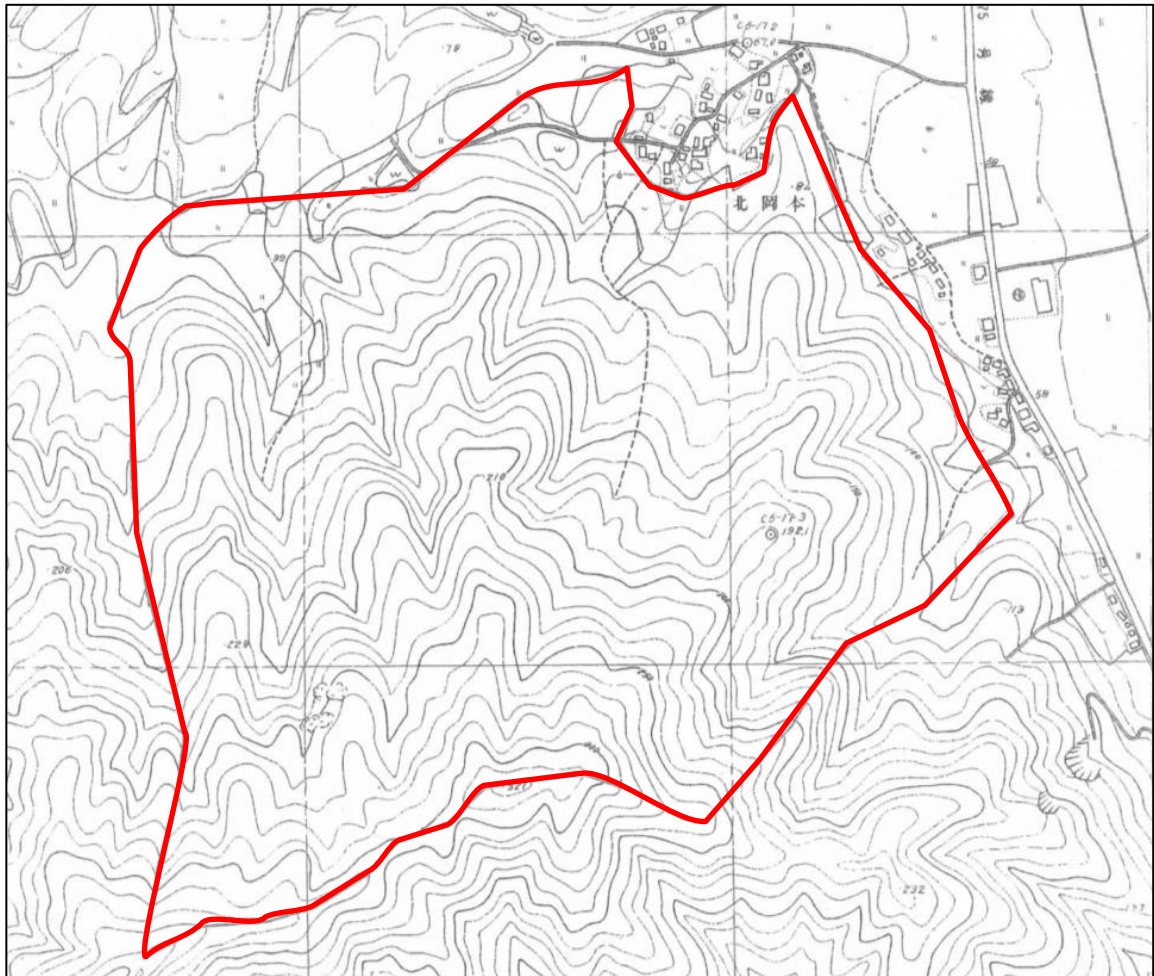
- ・今年度の「里山づくり現況調査」の進め方は以下の手順および内容で進める。

- ①現況図の作成（1/2500～1/5000 程度で活動範囲を確認）
- ②ヒアリング（基本情報、現場の確認など、代表者等にヒアリング）
- ③活動状況の確認（実際の活動に参加、活動内容、活動環境の確認など）
- ④ワークショップ1（課題、活動方向、やってみたいこと、サポート事項など）
参加者：主な活動メンバー、県民局農林振興事務所、丹波の森研究所など
- ⑤ワークショップ2（現況整理、今後の進め方、アドバイザーの関わりなど）
参加者：主な活動メンバー、県民局農林振興事務所、丹波の森研究所など
- ⑥現況調査まとめ（提出物）

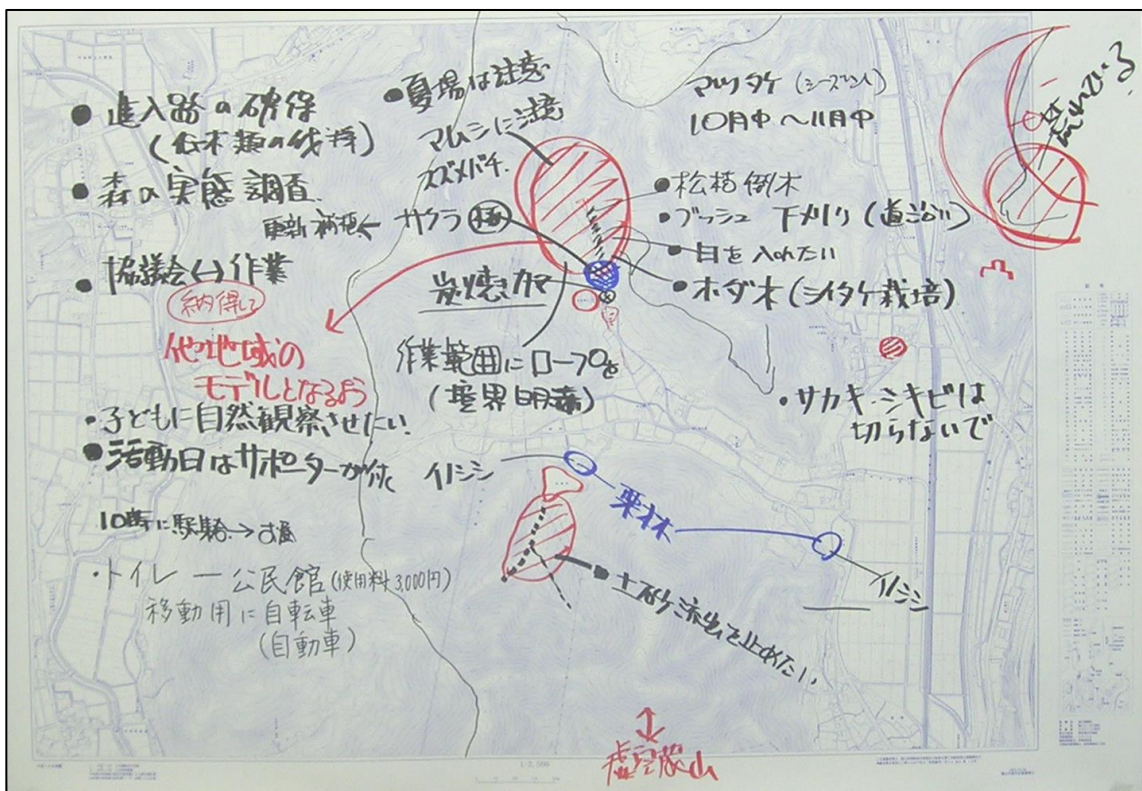
(2) ヒアリング内容例

- ①基本事項確認
 - ・活動拠点（集合場所）、代表者連絡先確認（双方）、連携団体など
- ②活動区域確認
 - ・地形図確認（1/5000 程度）、植生概要（林相）など
- ③活動内容確認
 - ・活動内容（除間伐、下草刈り、竹林伐採、植樹、栽培、遊歩道整備、広場整備など）
 - ・活動日、頻度（回数／月、直近の活動日の確認）
 - ・活動者数（概ね人数）
 - ・活動者所属（自治会、有志、外部応援者など）
 - ・所有道具の確認（手ノコ、チェーンソー、チップパー、薪割り機、チルホールなど）
- ④目標（目指す森の姿）
 - ・林業（育林、搬出など）
 - ・資源活用（バイオマス、栽培、6次産業化など）
 - ・レクリエーション活用
- ⑤課題
 - ・人材（参加者、サポート、アドバイザー）、資材、資金など

現況図（ヒアリング、ワークショップのベース図）



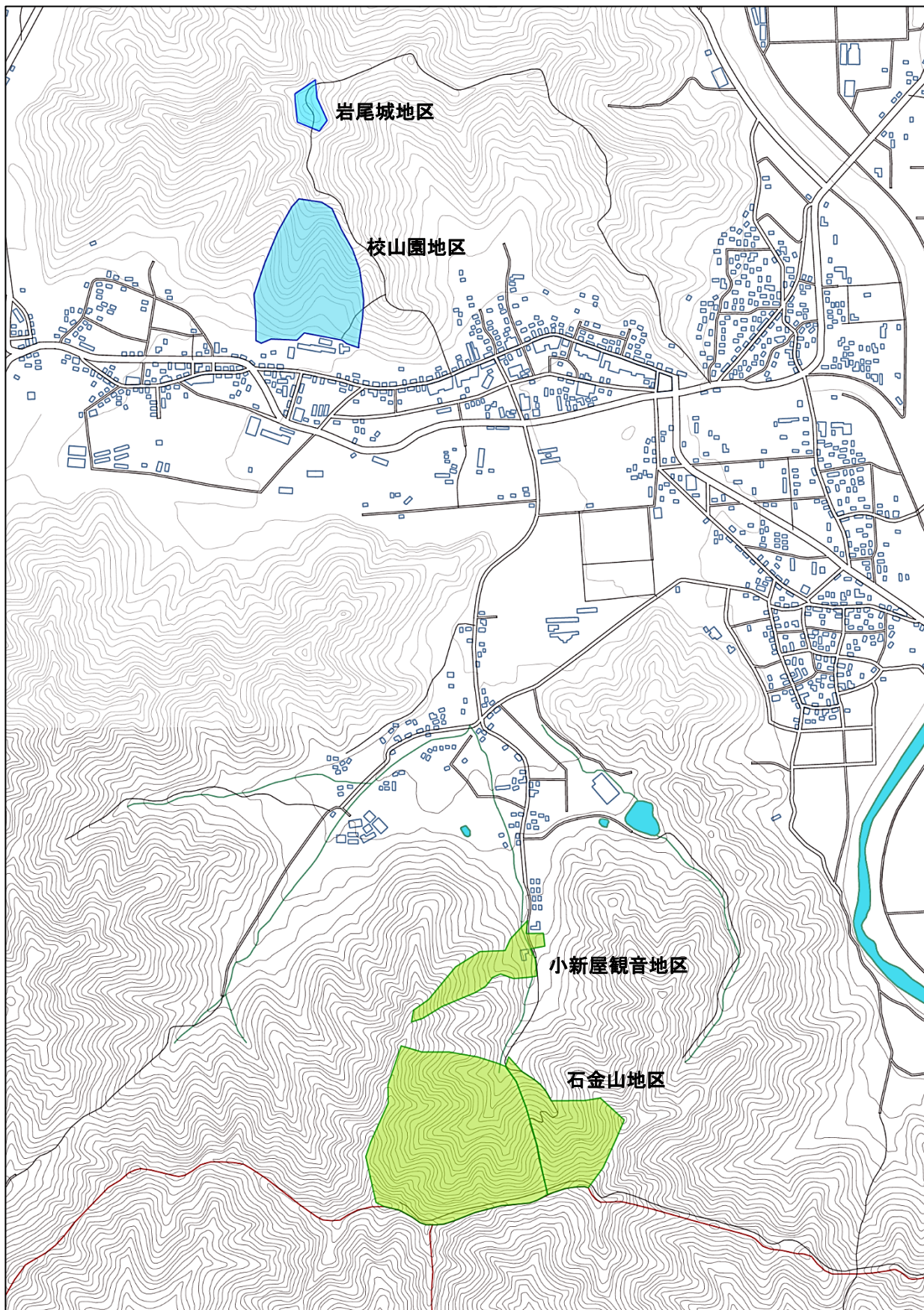
ワークショップの書き込みイメージ





4 里山づくりワークショップ

4-1 ふるさと和田里山づくり協会

(1) 区域



(2) 中間報告

日 時	場 所	出席者(人数)	協議内容
10月29日 10:30~	和田地域づくりセンター	里山づくり4人 丹波市、県民局 計7人	<ul style="list-style-type: none"> ・初回ヒアリング ・里山づくり活動団体支援の内容およびアドバイザーの役割等の説明 ・現況把握、意見交換 ・次回ワークショップの日程(11/27)
11月27日 19:30~	和田地域づくりセンター	里山づくり関係者 12人 県民局 1人	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の現況および課題の整理   
12月13日	和田小学校	里山づくり関係者 6人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学6年生による「自分たちが描くこれからの校山園」の発表会 ⇒ピオトープ池、アスレチック(ジップスライダー、丸太橋など)、安全な校山園(階段など)、 犬祭り/里親探し会、そうめん流し、里山マップづくり、植物や花の景色を楽しむ、すべり台やあそび場、ベンチなど
2020年 1月24日 19:30~	和田地域づくりセンター	予定	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回ワークショップ 各地区の里山整備方針と課題について

【ワークショップの様子】

- 協議内容とスケジュールの説明



- 質問をしながら現況や問題点を地図に書き込んでいく



- 今後の進め方について意見交換する



ふるさと和田さとやまづくり 第1回ワークショップ(20191127)まとめ

地区	面積 (ha)	現況・特徴	里山づくりの目標
岩尾城	約0.8ha	<ul style="list-style-type: none"> 岩尾城址(標高358m)は、石垣や井戸の残る山城遺構 登山口の1つが和田小学校内にある。 歴史愛好家や登山愛好家などが登っている。 地元有志が中心となって草刈りや雑木の伐採をしている。(環境保健福祉委員会など) 正月(1/4)に山登りイベントを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に歩ける登山道の修復整備(ルート標識、草刈・除伐)小学校ルート、大手門(親縁寺)ルート、和田下町ルート 城郭の遺構(石垣、井戸など)の保全
校山園	約10.4ha	<ul style="list-style-type: none"> マツ枯れにより、現在はクヌギ、コナラの二次林。 小学校の裏山(北側)の緩傾斜部は、いわゆる校山園として生徒達に利用されている。PTAが草刈り(1回/年) 卒業記念の植樹もあったが、現在は無い。 校舎近くの大木は、危険木として伐採。 小学校は避難地に指定。 校舎北の山は土砂災害警戒区域に指定、砂防堰堤あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校林としての活用(⇒子供たちの提案の実現?) 災害に強い山づくり 岩尾山への登山口、ルート(校山園内)の検討【和田小の提案12/13】 遊べる場所にしたい⇒アスレチック、山登り用の道や階段とすべり台、ピオトープ池、そーめん流し、校山園マップづくりなど
小新屋観音	約3.5ha	<ul style="list-style-type: none"> 毎月17日にお茶、お接待(小新屋自治会) 石金山への登山口(車でのアクセスが可能) もみじめぐり名所10カ寺に指定(11月は毎日対応) <p>丹波もみじめぐり名所10カ寺:高源寺(青垣)、円通寺、岩瀧寺、達身寺、高山寺(氷上)、白毫寺(市島)、石龕寺小新屋観音、慧日寺(山南)、三寶寺(柏原)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観音堂の後背地のヒノキ林の管理(20年近く放置状態) 	<ul style="list-style-type: none"> 当面は危険木となっているヒノキの伐採 ヒノキ人工林の維持管理(間伐など) モミジの植樹
石金山	約27.5ha	<ul style="list-style-type: none"> 山林は概ね植林地で、登山道東は財産区有林、西は小新屋有林。ヒノキ、谷筋はスギが多い。(30~50年生) 登山で訪れる人が多い(小新屋観音~丸太橋~石金山) 山頂(508.7m)に展望台。展望良好。岩尾山を見下ろす。 丸太橋(登山道)周辺が荒れている。 小新屋の子供会が登山。正月に山頂で雑煮(10~15人) 	<ul style="list-style-type: none"> 間伐を進めたい(自分たちでは無理⇒業者へ委託) 林内の倒木の搬出(木の駅プロジェクトには未加入) 自治会有志で登山道を整備したい

(4) 和田小学校の提案（令和元年 12月 13日）

- 和田小学校の6年生が考えた「自分たちが描くこれからの校山園」の発表会があった。
- 発表はパワーポイントで行われ、小学生とともにふるさと和田里山づくり協会のメンバーも視聴した。
- 提案に共通していたことは、校山園を遊べる場所にしたいということであり、アスレチック、すべり台、山登道や階段の整備、ピオトープ池、ソーめん流し、校山園マップづくり等が提案されていた。



(5) ワークショップ② (令和2年1月24日、19:30~21:30)

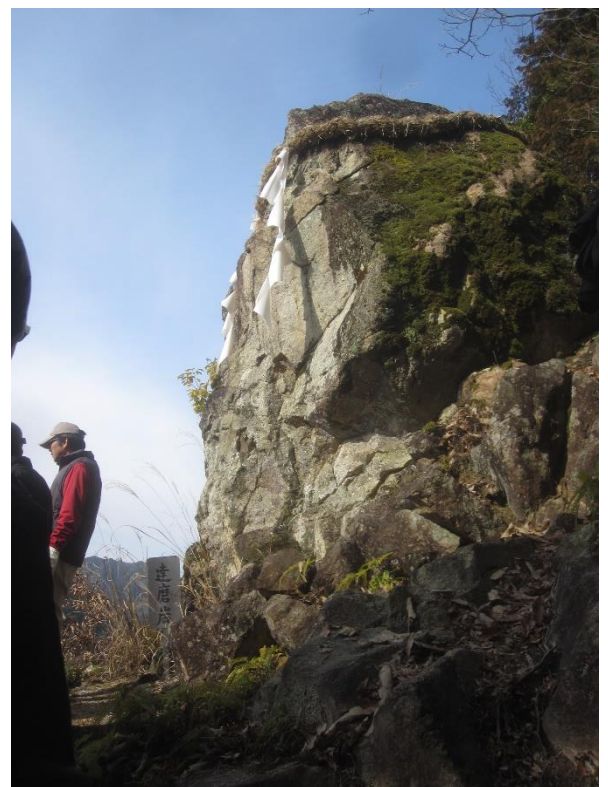
- 前回のワークショップおよび和田小学校の生徒からの提案も踏まえ協議した。
- 協議では、校山園で可能な里山づくりや岩尾城址への登山ルートについて、現況を確認する必要があるとのことから、現地調査を行うこととなった。

ふるさと和田里山づくりワークショップ(第2回 20200124)

地区	現況・活動	里山づくりの方向	目標・課題
岩尾城	<ul style="list-style-type: none"> • 岩尾城址の山城遺構 • 歴史愛好家や登山愛好家に人気 • 登山口の1つが小学校にある • 地元有志が草刈りや雑木の伐採 • 正月に山登りイベントを開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 安全に歩ける登山道の修復整備 (ルート標識、草刈りや除伐) • 城郭の遺構の保全 (石垣、井戸など) 	<ul style="list-style-type: none"> • メインルート (整備対象ルート) を指定? • 現況標識 (サイン) の更新と新設
校山園	<ul style="list-style-type: none"> • クヌギ、コナラの二次林 • 小学校裏山を校山園として活用 (PTAが草刈り: 1回/年) • 記念植樹は現在なし • 小学校は避難地に指定 • 土砂災害警戒区域に指定 (砂防堰堤あり) • 校舎近くの危険木を伐採 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校林としての活用 • 災害に強い山づくり • 岩尾山登山口ルートの整備 <p>【和田小学校の提案 12/13】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 遊べる場所にしたい (アスレチック、すべり台、山登道や階段の整備、ピオトープ池、そーめん流し、校山園マップづくり等) 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒+PTA+地元が協力して整備? ⇒ 学校と調整
小新屋観音	<ul style="list-style-type: none"> • 毎月17日にお接待、お茶 (小新屋自治会) • 石金山への登山口 (車でのアクセスが可能) • もみじめぐり名所10カ寺 (11月は毎日対応) • 観音堂後背地のヒノキ林の管理 (20年近く放置状態) 	<ul style="list-style-type: none"> • 観音堂に面するヒノキ林の伐採 • ヒノキ植林地の維持管理 • モミジの植樹 	<ul style="list-style-type: none"> • 伐採方法 (皆伐 or 抜き切り) ⇒ 安全面、景観 • 業者委託、範囲
石金山	<ul style="list-style-type: none"> • 石金山山頂(508.7m)展望台 • 概ね植林地 (スギ、ヒノキ) (東側は財産区、西側は小新屋有林) • 登山で訪れる人が多い (小新屋観音~丸太橋~石金山) • 丸太橋周辺が荒れている • 小新屋子供会が登山 	<ul style="list-style-type: none"> • 間伐を進めたい (30~50年生) (業者へ委託、皆伐 or 抜き切り) • 林内の倒木の搬出 (木の駅プロジェクト未加入) • 登山道を整備したい 	<ul style="list-style-type: none"> • 木材の搬出のための作業道の整備 • 業者委託と自伐型林業

(6) 現地調査（令和2年3月7日、9:00~14:00）

- ・岩尾城址登山道入口および登山ルートの確認





• 岩尾城址～校山園



丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・ふるさと和田里山づくり協会	活動員数	・30名
里山の所在地	・丹波市山南町和田 大谷・小新屋他	面積	・25 ha
目指す里山のすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史探訪やレクリエーションなどで訪れる人々に良かったと思ってもらえる里山 ・地域の子供たちなど住民の健康づくりや遊べる里山 ・良好な展望を有する岩尾城址や石金山への登山道のメンテナンスや環境整備 		
活動継続のために考えていること	<ul style="list-style-type: none"> ・活動員のみんなで里山の現況、課題を共有する ・将来目標をみんなで考え、設定する ・里山づくりに参加して頂いている様々な組織・団体と連携して作業を行う ・里山づくり作業を安全に実施するため、安全講習や防護服などを徹底する 		
現在の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・活動地区内の施設や登山道の維持管理や草刈りを実施している。 ・岩尾城址は地元有志が草刈りや雑木の伐採を行い、正月には山登りイベントを実施。 ・校山園（小学校裏山）はPTAが草刈りを実施している。 ・小新屋観音堂では毎月17日にお茶のお接待を小新屋自治会が実施し、紅葉のシーズンの11月には毎日対応している。 ・石金山には正月に小新屋自治会の子供会が登山し、雑煮をしている。 		
30年後の里山づくりに向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・石金山山頂展望台と岩尾城址および登山道の環境整備（ルート整備、入口ゲート、案内サインなど）を行い、登山者に安全で快適に楽しんでもらえるようにする。 ・校山園を和田小学校の学校林として活用していけるように小学生やPTA等と連携して継続的に整備を行う。 ・間伐材を利用して薪を作る。地域の施設への提供や販売も行う。 		

現況写真



●ワークショップの様子



●石金山展望台より岩尾城址を望む（写真提供）

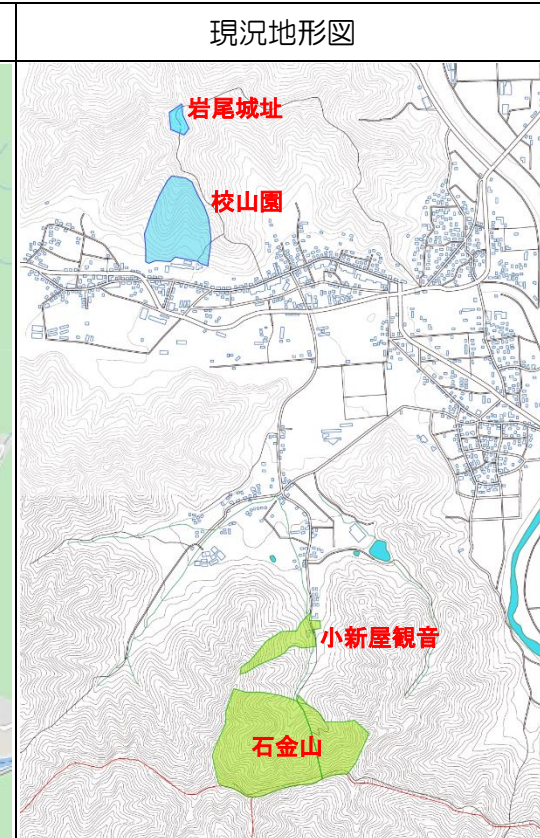
活動写真



●岩尾城址登山道入口



●岩尾城址の石垣

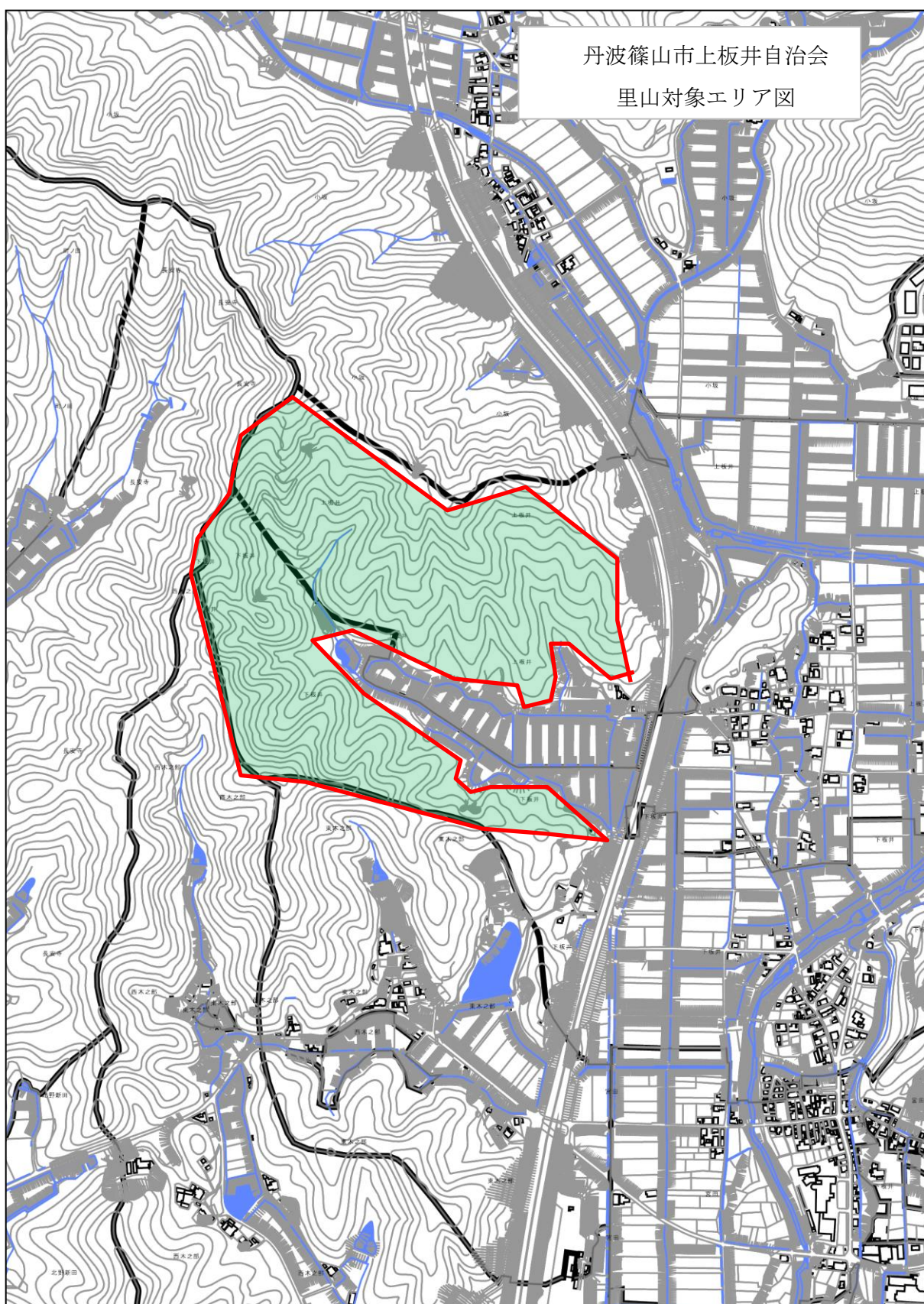


ワークショップ
まとめ

地区	現況・特徴	里山づくりの目標
岩尾城	<ul style="list-style-type: none"> ・岩尾城址（標高358m）は、石垣や井戸の残る山城遺構 ・登山口の1つが和田小学校内にある。 ・歴史愛好家や登山愛好家などが登っている。 ・地元有志が中心となって草刈りや雑木の伐採をしている。（環境保健福祉委員会など） ・正月（1/4）に山登りイベントを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に歩ける登山道の修復整備（ルート標識、草刈・除伐）小学校ルート、大手門（親縁寺）ルート、和田下町ルート ・登山道入口の明示、案内サインの設置 ・城郭の遺構（石垣、井戸など）の保全
校山園	<ul style="list-style-type: none"> ・マツ枯れにより、現在はクヌギ、コナラの二次林。 ・小学校の裏山（北側）の緩傾斜部は、いわゆる校山園として生徒達に利用されている。PTAが草刈り（1回/年） ・卒業記念の植樹もあったが、現在は無い。 ・校舎近くの大木は、危険木として伐採。 ・小学校は避難地に指定。 ・校舎北の山は土砂災害警戒区域に指定、砂防堰堤あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校林としての活用（⇒子供たちの提案） ・災害に強い山づくり ・登山口、ルート（校山園内）の検討【和田小の提案12/13】 ・遊べる場所にしたい⇒アスレチック、山登り用の道や階段とすべり台、ピオトープ池、ソーめん流し、犬猫の保護（里親）、校山園マップづくりなど
小新屋観音	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月17日にお茶、お接待（小新屋自治会） ・石金山への登山口（車でアクセスが可能） ・もみじめぐり名所10カ所に指定（11月は毎日対応） <small>丹波もみじめぐり名所10カ所：高源寺（青垣）、円通寺、岩瀧寺、達身寺、高山寺（水上）、白毫寺（市島）、石蔵寺小新屋観音、慧日寺（山南）、三寶寺（柏原）</small> <ul style="list-style-type: none"> ・観音堂の背後地のヒノキ林の管理（20年近く放置状態） 	<ul style="list-style-type: none"> ・当面は危険木となっているヒノキの伐採 ・ヒノキ人工林の維持管理（間伐など） ・モミジの植樹（観音堂周囲） ・お堂に使用する薪づくり⇒間伐材の利用
石金山	<ul style="list-style-type: none"> ・山林は概ね植林地で、登山道東は財産区有林、西は小新屋有林。ヒノキ、谷筋はスギが多い。（30～50年生） ・登山で訪れる人が多い（小新屋観音～丸太橋～石金山） ・山頂（508.7m）に展望台。展望良好。岩尾山を見下ろす。 ・丸太橋（登山道）周辺が荒れている。 ・小新屋の子供会が登山。正月に山頂で雑煮（10～15人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐を進めたい（自分たちでは無理⇒業者へ委託） ・林内の倒木の搬出（木の駅プロジェクトには未加入） ・自治会有志で登山道を整備したい⇒丸太橋の安全向上（手すり、滑り止など）

4-2 上板井自治会

(1) 区域



(2) 中間報告

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
令和元年 8月6日 13:30～	丹波県民局	アドバイザー 県民局 計7人	第2回里山づくりアドバイザー会議 ・各地区昨年度の報告今 ・年度業務委託内容、アドバイザー就任依頼
9月18日	丹波県民局	森研究所 県民局 市役所 上板井自治会役員	モデル里山林活動団体選定の事前ヒアリング 活動の概要と今後の思いについて聞き取り ・シイタケ栽培を中心に地域おこしを考えている。 ・マツタケ林再生事業にも取り組んできた。 ・里山彩園事業でシイタケ原木生産をしている。 ・今後もその活動を広げていきたい。
10月29日	篠山市 上板井公民館	アドバイザー 森研究所 県民局 丹波篠山市役所 上板井自治会4名 計8名	初回ヒアリング これまでの活動内容について聞き取り ・市単独補助事業でマツタケ林再生事業、里山彩園事業に取り組んできた。 ・今年度も里山彩園事業に取り組む計画。 ・事業の核に、シイタケづくりを位置付け。 ・シイタケ栽培に関しては、まったく素人なので、専門家に教えてもらいたい。 ・この春に植菌した榎木の状況を確認 ・整備対象森林の遠望確認 ・次回は整備対象森林の現地調査を予定
11月21日 PM2:00～	丹波篠山市 上板井地区 森林現地調査	アドバイザー 自治会役員 4名 計5名	・今年度、里山彩園事業で整備予定の森林確認 →シイタケ原木になる木が少ないので、整備箇所 の再検討アドバイス ・対象森林について林況調査 尾根筋ミツバツツジ確認 ・シイタケ栽培に関する指導者招聘を次回計画

<p>12月4日 PM1:00～</p>	<p>丹波篠山市 上板井公民館 森林現地</p>	<p>アドバイザー 日本きのこセンター 指導員 県民局 自治会役員 3名 計6名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シイタケ栽培の基礎知識 ・今春植菌した榎木の診断 場所的には直射日光が当たらなければ良い。 寒冷紗で覆っているのは良かったが、榎木に 直接触れているところは夏場高温になり菌は 死滅 林内に伏せこむ方が良い。 ・伏せ込み候補森林の現地確認 湿潤なところを避けて林内の灌木等を整理 すれば、最適な場所になる。 ・シイタケのほかヒラタケ栽培も提案 ・2～3月に植菌作業計画
<p>令和2年 2月～3月</p>	<p>森林現地</p>	<p>自治会役員他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2月中旬 原木集積、植菌作業場の整備 ホダ伏せ場の整備 日本きのこセンター石破指導員の指導に基づき、複数回の植菌活動実施

森林状況調査



谷部は人工林（個人所有）



稜線、尾根部はやせ地の広葉樹林



コバノミツバツツジも多い

シイタケ栽培の勉強会



- ① 日本きのこセンターの石破指導員から話を聞く。
- ② 昨年植菌した榎木の成熟状況の確認（管理方法についての指導を受ける）
- ③ 今年の活動で、シイタケ栽培の作業、本伏場に適した個所の調査

【参考】4月からの状況

日時	場所	出席者（人数）	協議内容
4月3日	上板井自治会 活動森林現地	アドバイザー 県民局 活動メンバー 6名	<ul style="list-style-type: none"> 板井里キノコ園の看板設置 原木生産が過剰となり、追加で1万駒植菌作業 テントの設置、発電機整備により、現地作業ができるようになった。



対象森林入り口にキノコ園の看板設置



キノコの伏せ込み、植菌作業場として整備された空間



女性メンバーも参加して植菌作業
太いフジカズラにはヒラタケを植菌



丹波篠山市単独補助 里山彩園事業で
整備した機材（発電機）を活用

今後の課題として、鳥獣被害（特に猿）の対策が必要。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・ 丹波篠山市上板井自治会	活動員数	・ 15人
里山の所在地	・ 丹波篠山市上板井・下板井 興法寺	面積	・ 24.9ha
目指す里山のすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丹波篠山市単独補助事業の里山彩園事業およびマツタケ林再生事業箇所を中心に地域の人たちが里山に目を向けてもらえるような、価値のある里山作り ・ シイタケ生産に向けた里山作り 		
活動継続のために考えていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山整備活動に関わることで、いくらかの収益が得られる仕組みづくり（シイタケ生産、マツタケ発生林） ・ 活動を通じて、地域コミュニティを強めていくこと 		
現在の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5～6年前から、人農地プランの取組みで、草刈支援隊を結成し、耕作放棄地の草刈り作業を進めている。 ・ その活動メンバーが中心となって、平成30年から、里山彩園事業で整備した森林からシイタケ原木を生産し、植菌を進めている。 ・ 発生ホダ木を地域住民に配布、発生シイタケの販売など、作りで参画者を増やしていく。 ・ 市主催の里山スクールでチェーンソー安全講習を受講しているメンバーもある。 		
30年後の里山づくりに向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山に関する知識が不足しているので、学習の場が必要 ・ 誰もが入りやすく、山の管理が出来るように、林内路網の整備が必要 ・ 木の駅プロジェクト活用を高めるための機材、技術の習得 ・ 地域活動として地域内の誰もが、この里山に関連した活動に取り組める仕組みづくり 		



森林調査 山裾の谷部には個人所有のスギの人工林 近年は手入れすることなく放置状態
尾根に向かうと、里山二次林（雑木） シイタケ原木になる樹種の密度は低く、搬出も困難

現況写真



活動写真

シイタケ生産に向けての学習会 日本キノコセンター普及指導員により
ホダ木の管理状況の診断、ホダ木の伏せ込み場の診断、アドバイスを受ける
シイタケ栽培方法等について講習を受ける。

現時点では、全体としてのワークショップは未実施

- ・ 現況調査ということで、森林を周回調査を行い、植生状況を確認。
当初計画していた、市単独補助事業の里山彩園事業箇所の植生にシイタケ原木に適する樹種が少ないことから、整備箇所計画の変更を行う。
- ・ シイタケ栽培指導を受けて、2～3月に新しい原木への植菌作業を実施する。
- ・ 現地調査した際に、指導を受けたホダ場候補地の整備作業を実施。
- ・ シイタケホダ場に整備した箇所には、テントを張るなどして、植菌作業もやりやすい環境作りを行っている。
今春は、これらの活動を通じて、仲間を増やしていく計画。
- ・ 今後、改めて、森林調査を行い、森づくりの見える化と、森林資源の活用方法についての提案などを通して、森づくり意識の共有が出来るように進めていく。

ワークショップ
まとめ

位置図

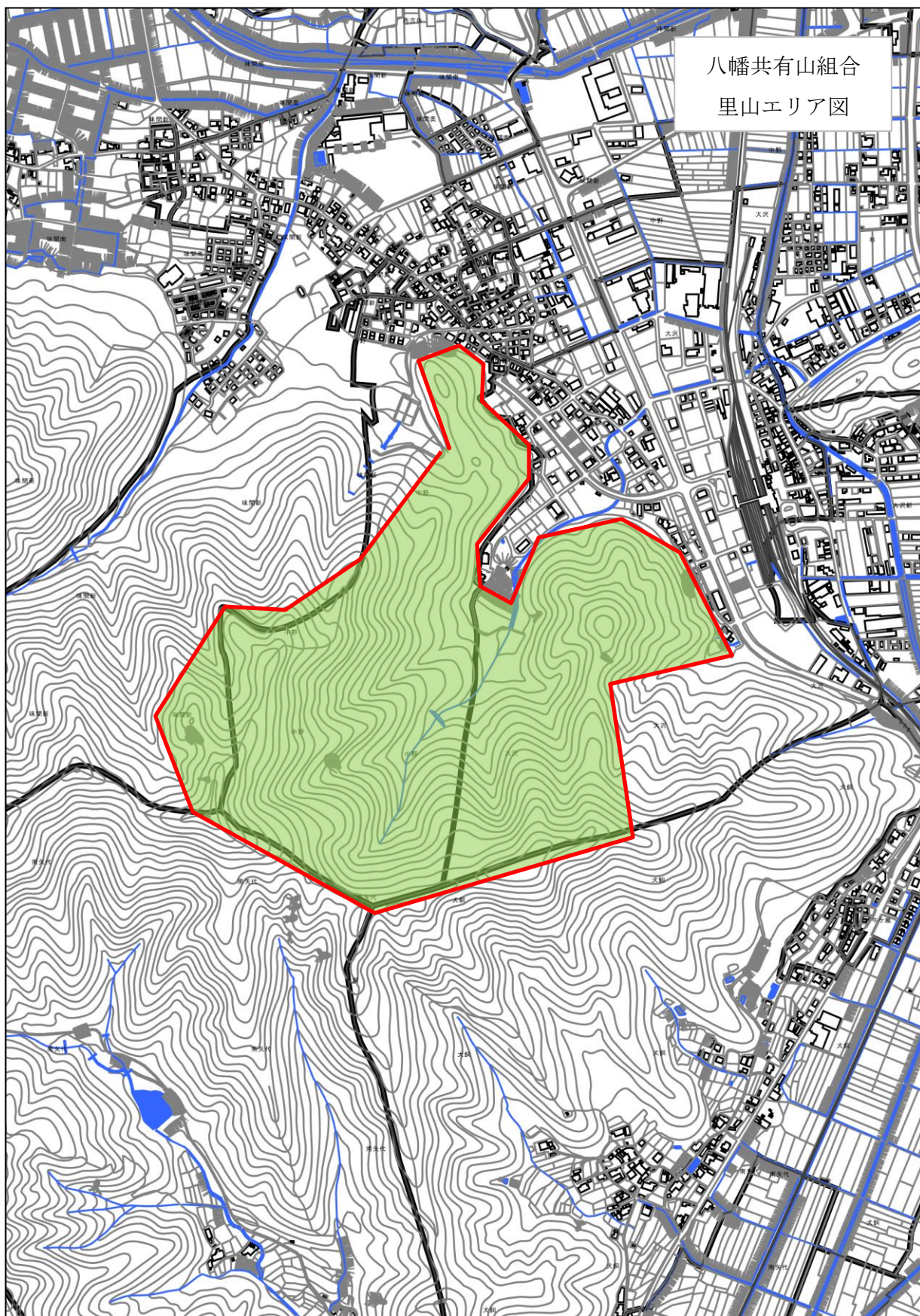


現況地形図



4-3 八幡共有山組合

(1) 区域



(2) 中間報告

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
令和元年 8月6日 13:30～	丹波県民局	アドバイザー 県民局 計7人	第2回里山づくりアドバイザー会議 ・各地区昨年度の報告今 ・年度業務委託内容、アドバイザー就任依頼
9月10日	丹波県民局	森研究所 県民局 市役所 共有山会会長	選定前の事前ヒアリング 活動の概要と今後の思いについて聞き取り
10月29日	篠山市 杉公民館	アドバイザー 森研究所 県民局 丹波篠山市役所 共有山会 2名 計6名	初回ヒアリング 共有山組合の活動内容について聞き取り ・組合長は世代交代の必要性を感じ次代に向けて事業が進められるようアドバイザーを要請した。 ・会計は、現在の進め方で十分と考えており、アドバイザーは不要と考えている。 ・役員間で意見の相違があるため、今後、内部調整が必要。 ・2回目の会合については未定
令和2年 1月20日	篠山市 杉公民館	アドバイザー 森研究所 県民局 丹波篠山市役所 共有山会 2名	共有山組合の構想について聞き取り ・大沢ロマンの森（里山整備事業）に造成された遊歩道を中心に、各ポイントの特徴（歴史的背景）を活かすこと。 ・その特徴をさらに広げるために、遊歩道の新設、展望箇所の整備などを希望 ・通常の活動は、既存の歩道の維持管理 ・JR篠山口駅から徒歩で登山に行ける立地を生かして、高尾山（東京都）の登山者の入り込み状況を例に取り、イメージを膨らませる。 ・組合としては、組合が維持できることを前提として、どのような支援が得られるのかを期待している。 ・組合作成構想図面を電子化することで預かる

【参考】4月以降の状況

日時	場所	出席者（人数）	協議内容
4月9日	八幡神社 大沢ロマンの森現地	アドバイザー 丹波篠山市役所	<p>組合総会に向けての事前打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合としては、アドバイザーから何か支援策の提供があるのか？を期待されている。 ・活動は、自主的なもので、自分たちがどのような森づくりをイメージしているのかを参加者の皆さんで共有することが大切である旨伝える。 ・組合は、いかに組合の活動を継続できるかが課題であり、そのためには支援策を提供してもらいたい。ということが役員としての思い。 ・山の中を少し散策する。 コバノミツバツツジが多く、花も咲き始めており、これを生かせるような森林整備も必要。 ・次回、予定している総会および6月の活動で、会員に、森を生かす可能性について話をすることになった。



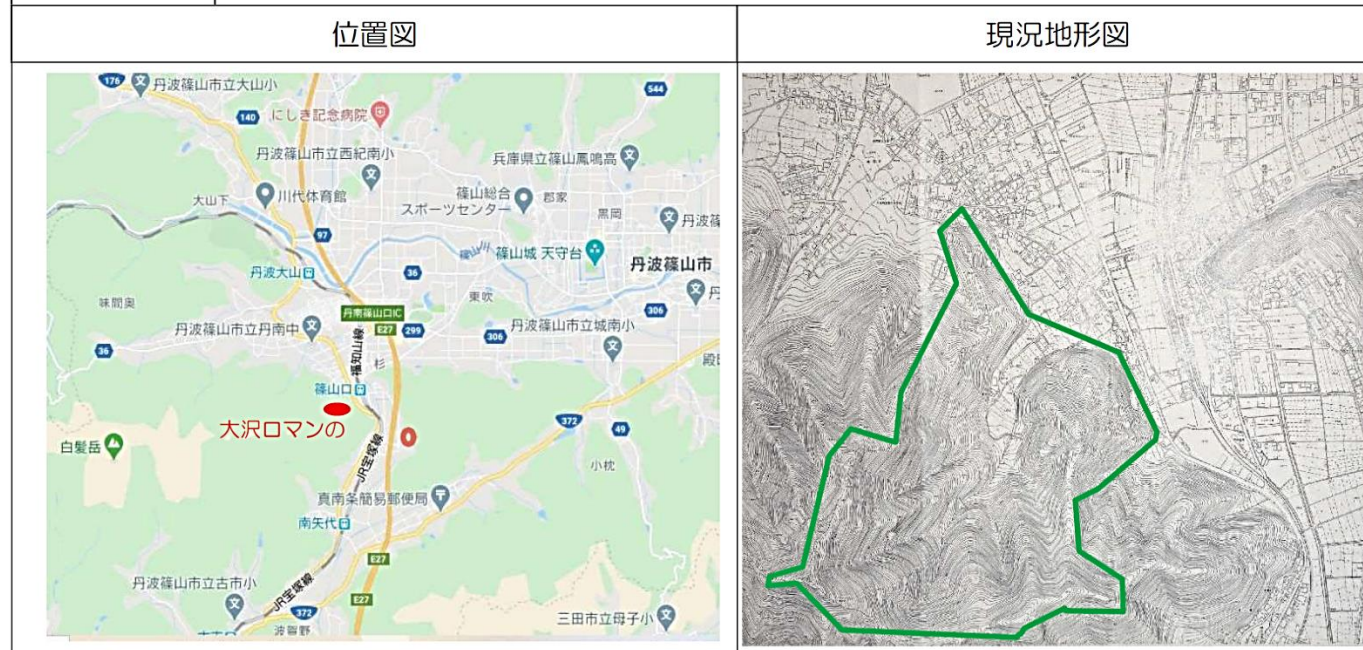
大沢ロマンの森を中心に、針葉樹林と広葉樹林の混交林整備、歴史背景説明看板が設置。



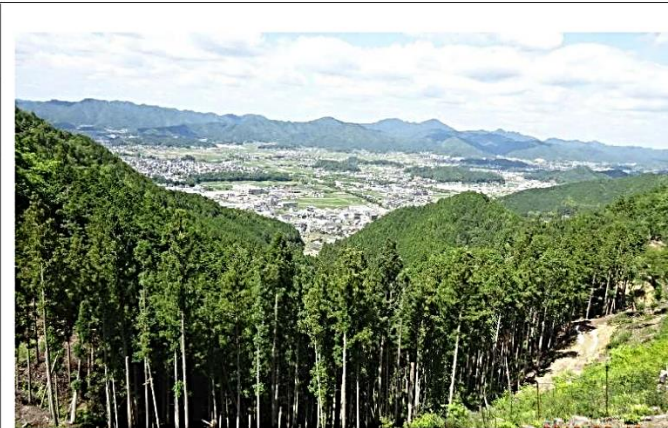
遊歩道沿いには、道案内看板、ポイントでの説明看板が設置されている。
この遊歩道を中心に、森林整備を行う計画。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・丹波篠山市八幡共有山組合	活動員数	・51名
里山の所在地	・丹波篠山市 大沢奥谷山	面積	・37.3ha
目指す里山のすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史遺産を背景に、戦国時代へのロマン回帰出来る森林散策が出来る ・交通の利便性を活かした安全、安心、快適さを備え、容易に入山できる里山環境（地域内外からの多くの登山者を招くことの出来る魅力ある森作り） ・森林資源を活かしつつ、健康作りも出来、老若男女の人たちが入って楽しめる里山（栗やドングリなどの実のなる樹木の植栽・栗拾い、昆虫採集など出来る森） 		
活動継続のために考えていること	<ul style="list-style-type: none"> ・活動資金の確保（活動継続の糧） 従前どおり、組合による整備活動時に参加出来ない会員からの不参金 クヌギ、雑木等の薪材、体験活動で作る各種キノコの植菌ホダ木等の販売 ・広報担当理事を通じて味間まちづくり協議会、教育委員会、各所の自治会、子供会等に働きかけ、広く大沢ロマンの森を解放する。 		
現在の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・県補助事業の住民参画型森林整備、市補助事業の里山彩園事業の補助金を受け、各種機材を備え、年4回のクリーン作戦日には、公園内の樹木剪定、木製車止め制作、随時民有林の危険木伐採、間伐やくヌギなどを伐り出し薪作りの他、ナメコ、ヒラタケ、シイタケのホダ木作りも行う。 ・他に年2回、のべ20名が、大沢ロマンの森の里山林の登山道の倒木伐採、除去、登山道の階段、排水溝の設置や整備を行っている。 		
30年後の里山づくりに向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備活動を継続するために、下記のことについて計画的な枠組み作りをする ① 活動資金の捻出；・共有山組合が中心となって活動を継続していく。 ・ホダ木、薪材の供給 ② 活動人員の増強；・所有動力機械を使える人員を増やすべく安全講習会の開催 ③ 多くの人に大沢ロマンの森の魅力を知ってもらう。；・SNSで、この地の様々な魅力を発信し、近郊都市の日帰りトレッキングコースとなるようアピールする。 ④ 多くの人に入山してもらう。；・登山道の保守管理、案内板設置などの整備 		



現況写真

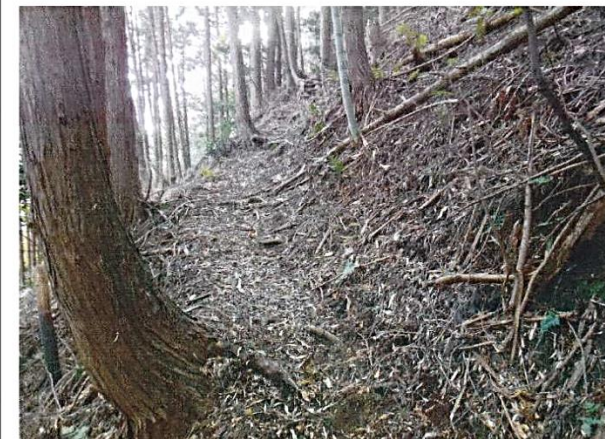


写真① 林内作業路終点付近からの眺望



林内の要整備箇所

活動写真



林内歩道 要整備箇所



林内遊歩道の案内看板

八幡山共有山組合役員の中で、これからの森作りについて提案していく内容としてのまとめ
【植生に関すること】 対象森林の大半は、スギ、ヒノキの人工林である。他に常緑広葉樹として、ヒサカキ、アオキ、チャノキ、タラヨウ等がある。落葉広葉樹では、クヌギ、コナラ、ヤマザクラ、ヒカゲツツジなどが自生している。

また、林内作業路の後半エリアには、針葉樹林と広葉樹林の混交林整備事業が実施されて、広葉樹植栽は、シカ被害防止のためパッチ状に植えられているが、被害防止柵の外側の植生はほとんどシカの食害を受け、裸地化している。

【資源としての活用】 森林内に遊歩道の整備をすることで、林内散策や登山により健康作りのできる場所として活用できる。特に、交通の利便性の良い立地条件から、地域内外の多くの人たちに活用してもらえる。

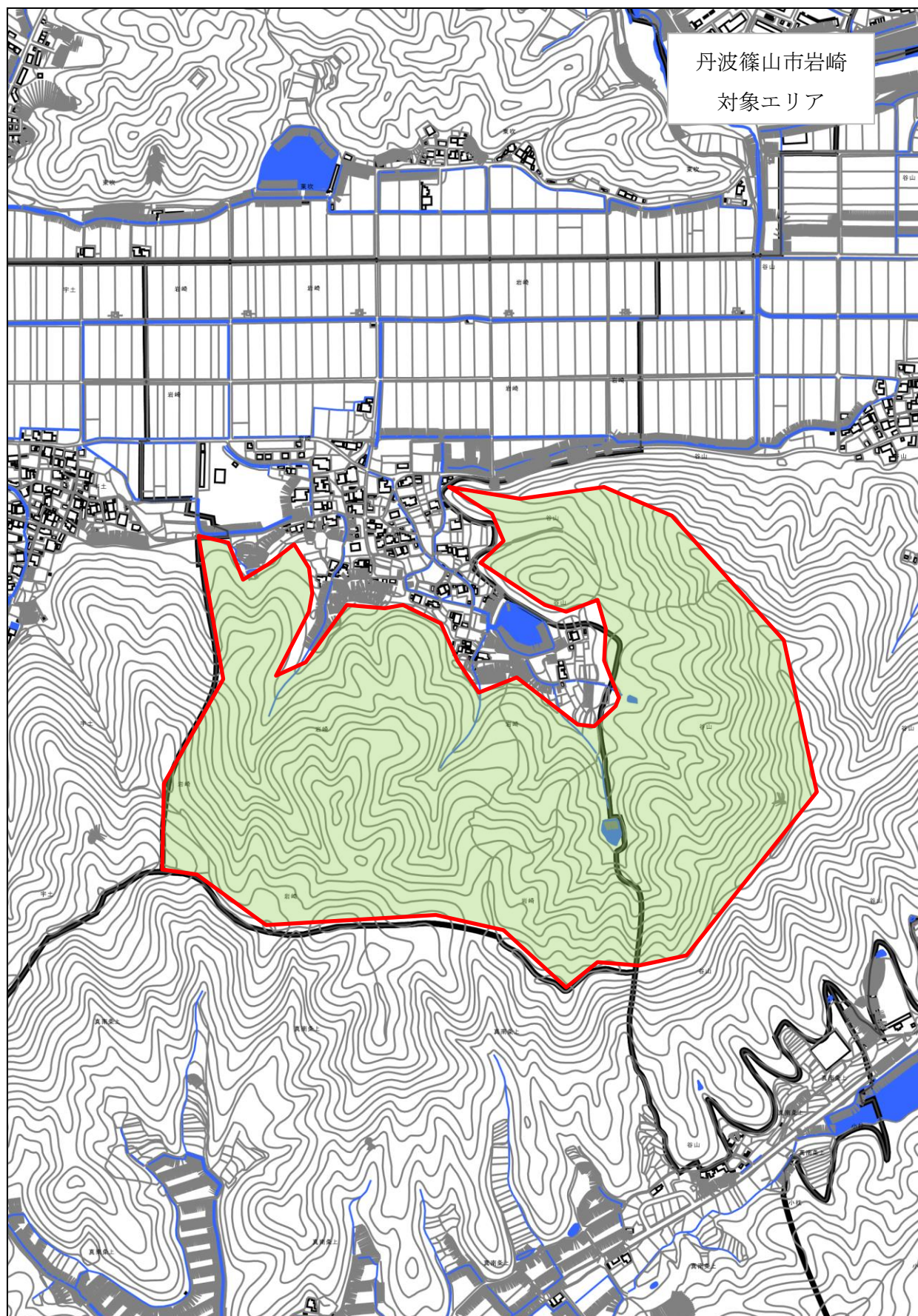
【地域との連携】 広報担当役員を通じて、まちづくり協議会、教育委員会、地区子供会等にも周知し、大沢ロマンの森の活用について参画してもらう。現在も、登山リピーターも多い。

【30年後の里山づくりに向けて】 別添1の整備構想図面を参照。

- ・回遊登山道の整備；既存歩道（緑線）の改修と併せて、新設歩道（赤線）の整備をする。整備内容としては、急傾斜地の階段工、排水溝等を必要な箇所に設置する。
- ・各拠点に説明看板を設置、拠点間の道中に方向指示案内看板を設置する。
- ・展望の出来る拠点では、見晴らしを良くするための、森林整備（高木伐採）（黄色の囲い）
- ・展望箇所には、ベンチ等の設置
- ・定期的にイベントとして、里山三山（禄象山-大沢奥谷山-火とぼし山）トレッキングや歴史探索ハイキングを企画したい。

4-4 岩崎自治会

(1) 区域



(2) 中間報告

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
令和元年 8月6日 13:30～	丹波県民局	アドバイザー 県民局 計7人	第2回里山づくりアドバイザー会議 ・各地区昨年度の報告今 ・年度業務委託内容、アドバイザー就任依頼
9月10日	丹波県民局	森研究所 県民局 市役所 岩崎自治会副会長	モデル里山林活動団体選定の事前ヒアリング 活動の概要と今後の思いについて聞き取り ・まだ、活動はしていないが、これから地区の森林を活かしていきたい。
令和2年 1月20日	岩崎公民館	アドバイザー 森研究所 県民局 市役所 岩崎自治会副会長	初回ヒアリング ・利益の出る山にしたい。（人工林の見直し） ・獣害対策としてのバッファゾーンづくり ・高齢化が進む中、交流人口を増やしていきたい ・荒廃耕作地には竹が密生、枯竹の処理など ・マツタケ山の再生 整備方法について 現地を見て、箇所毎に具体的方法を検討する。
3月7日	岩崎公民館 対象森林	アドバイザー 県民局 市役所 岩崎自治会長ほか 5名	現地確認 ・人家裏耕作地の荒廃竹林の整備方法 ・人工林の生育状況、整備方法 ・砂防堰堤設置箇所、作業用道路計画あり、山道の分断に配慮必要 ・林内歩道沿いの植生確認 ・これからの取組みについて 今後、要打ち合わせ



人工林が多いので、整備計画が重要 尾根部にはコバノミツバツツジの群生もある。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・ 丹波篠山市岩崎自治会	活動員数	・ 10人
里山の所在地	・ (要確認)	面積	・ 30ha (要精査)
目指す里山のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 人工林 植栽木を活かし価値のある森林に整備を進め、経済林モデルとする。価値が見込めない場合は、改植を検討 広葉樹の森林 竹林 タケノコ生産林とする。樹種転換を図る。 広葉樹林ほか森林全体の構想 人が入って、気持ちよく感じる森林、子供たちが遊べる森林、経済価値のある林産物が生産できる森林。 		
活動継続のために考えていること	<ul style="list-style-type: none"> 隣接集落(宇土、谷山)と一体となって森林経営計画等により、計画的な森林整備事業を進め、人工林は経済林として価値のある森林として育成していく。 四季を感じ、住民がその美しさを楽しむことができるようにして、森林への関心を深めてもらい、林内散策など里山を周回することで健康増進も図れる。 自治会および新規居住者と共に活動組織を立ち上げる 		
現在の取組	<ul style="list-style-type: none"> 地区役員、有志により、山林の現状を知るために森林を周回散策 まずは、近くの竹林の整備を検討 スギ、ヒノキの人工林については、将来性を勘案しながら保育方法を検討 尾根筋の雑木林は、ミツバツツジなども多く、景観を活かした整備方法を検討 		
30年後の里山づくりに向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 活動組織の立ち上げ 広く参加者を引き入れ、活動を継続するための仕掛け作り 砂防ダム整備に合わせた周辺環境整備の推進 将来的に経済林に導くための森林経営計画に基づく森林整備の出来る事業者の選定 		



岩崎集落背面の森林 多くは人工林。



市単独補助事業で人家(寺)裏山の皆伐箇所



自治会役員、有志による森林調査



尾根筋にはミツバツツジの群生が見られる

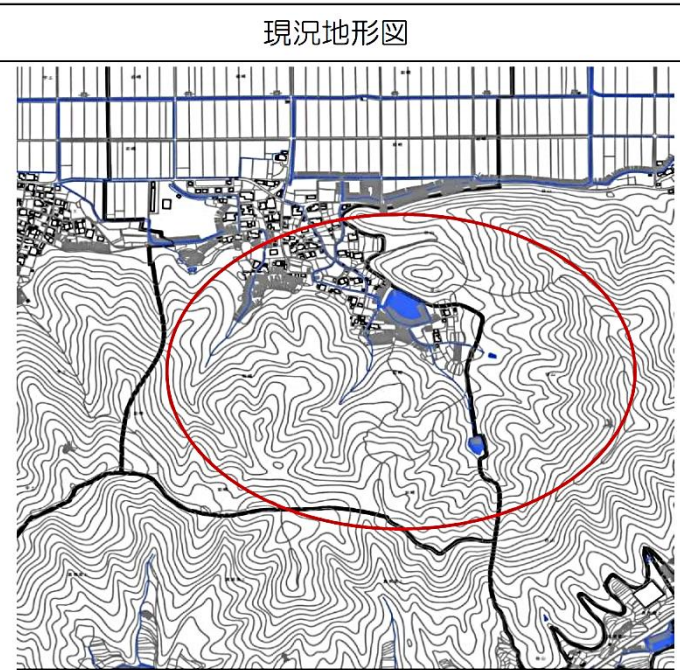
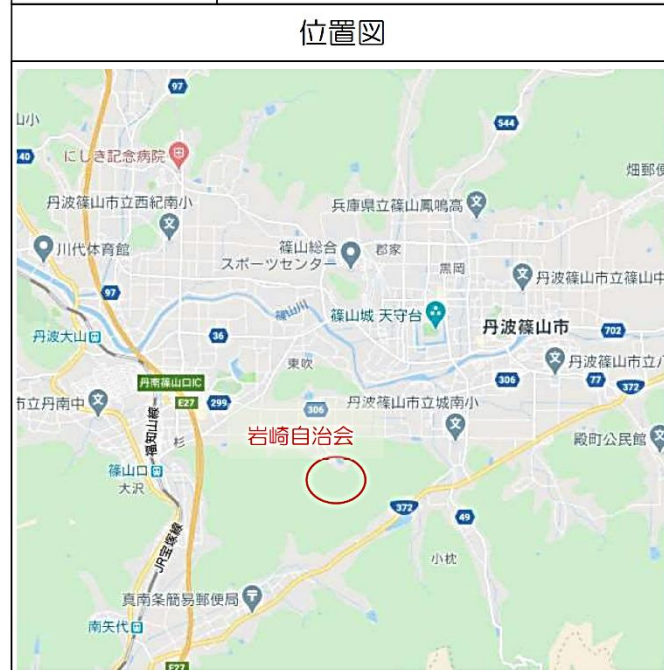


砂防堰堤工事計画箇所
計画区域の西側の谷筋はスギの植林地



東側の尾根筋はヒノキの植林地

ワークショップまでは出来ていないが、関係者と林内調査を行った。



ワークショップ まとめ

- ・ 人家裏の荒廃竹林から手をつけていく。整備の成果がすぐ目に付き、関心を高めることが期待できる。
伐った竹の利用や、整備竹林の今後の勝井用方法なども検討していきたい。
- ・ 砂防堰堤の建設が来年度以降計画されており、作業用道路も開設される。開設後の活用についても考えていきたい。
- ・ 人工林が多く、残す価値のある山か？皆伐して改植した方が良いのか？今後仕分けていく必要がある。
- ・ 林内歩道があるが、もっと整備して歩きやすくする必要もある。1周1時間ほどのコースで、健康作りにも良い。
- ・ 尾根筋は、ミツバツツジも多く、整備して散策路にすると、花の時期に花回廊になる。
- ・ 今後の進め方として、森林整備方針の見える化をして、地域の人への関心度を高めていく必要がある。

令和元年度
丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務
(実践計画、中長期計画策定支援)

報 告 書

令和2年3月

公益財団法人 兵庫丹波の森協会
丹波の森研究所

目 次

1	業務の目的および内容	1
2	丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体概要	3
3	里山ワークショップ	5
3-1	生郷里山づくり懇話会	5
3-2	平松区森林愛好会	23
3-4	特定非営利活動法人バイオマス丹波篠山	31
3-3	北岡本自治会	43
3-5	特定非営利活動法人バイオマスフォーラムたんば	47
3-6	下三井庄自治会	51

1 業務の目的および内容

(1) 業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

(2) 業務内容

1) 里山づくり協議会の設置

- ・選定された下表の里山づくり活動団体（以下、活動団体）については、里山づくりアドバイザー（以下、アドバイザー）の支援を受けながら持続的に活動が可能な体制になるよう、各活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下、協議会）」を設置する。
- ・協議会を構成するメンバーは活動団体、アドバイザーのほか、（公財）兵庫丹波の森協会丹波の森研究所、活動地所在市（丹波篠山市、丹波市）の担当課、丹波農林振興事務所等とし、（公財）兵庫丹波の森協会（丹波の森研究所）はコーディネーターとして協議会への助言、支援を行う。

・H30 選定里山づくり活動団体

団体名（応募順）		活動区域
1	生郷里山づくり懇話会	丹波市氷上町
2	平松区森林愛好会	丹波市春日町
3	北岡本自治会	丹波市市島町
4	特定非営利活動法人 バイオマス丹波篠山	丹波篠山市
5	特定非営利活動法人 バイオマスフォーラムたんば	丹波市氷上町
6	下三井庄自治会	丹波市春日町

2) 里山づくり協議会の設置

① 「里山づくり30年計画」の策定

前年度の基礎調査内容の再確認を行い、それに基づき「里山づくり30年計画」を策定する。その計画に基づき、それを実現するための次年度以降のアクションプランを立てる。「里山づくり30年計画」とアクションプランの策定に当たっては、ワークショップ形式で策定作業を進め、参加者の意識共有ができるように支援するとともに、その内容を取りまとめる。

② 「里山づくり30年計画」実現のための課題整理

協議会、現場活動等に参加して、活動における問題点（安全管理、必要機材や道具、人材育成、地域連携等）を把握して、「里山づくり30年計画」の実現のための課題整理を行い、その内容を取りまとめる。

③ とりまとめ

年度末に、今年度の活動を振り返って、今後の中長期の活動計画について考えるワークショップを開催し、その内容を取りまとめる。

④ フォーラム準備支援

11月に開催予定のフォーラムで活動発表をする活動団体については、発表内容について助言を行う。

■里山づくりアドバイザー派遣地区（6地区）



- | | |
|------------------------|-------------|
| ① バイオマス丹波篠山（森の学び舎） | 内田圭介アドバイザー |
| ② 生郷里山づくり懇話会 | 宮川五十雄アドバイザー |
| ③ 平松区森林愛好会 | 門上幸子アドバイザー |
| ④ 下三井庄自治会 | 山崎春人アドバイザー |
| ⑤ バイオマスフォーラムたんば（ごんげん山） | 山崎春人アドバイザー |
| ⑥ 北岡本自治会 | 門上保雄アドバイザー |

2 丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体概要

■里山づくり活動団体概要（6地区）

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点	アドバイザー
生郷里山づくり懇話会	酒井浩二 丹波市氷上町 0795-82-2666	<ul style="list-style-type: none"> 活動対象エリアは、水分れ資料館周辺と小学校・幼稚園の裏山の2地区 ヒカゲツツジなどの希少種の群生地があり、シーズンには愛好家が相当数訪れるが、遊歩道整備は十分とは言えない状況 実績としては自治会の草刈り程度であり、活動組織づくりが今後の課題となっているようである 	これから森林整備に取り組もうとする段階であり、様々な面でのアドバイスが必要。 ヒカゲツツジなど植生保全。	宮川 五十雄 丹波の森研究所研究員 NPO 森の都研究所代表
平松区森林愛好会	伊藤忠嘉 丹波市春日町 090-8829-3460	<ul style="list-style-type: none"> 林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受けている。交付金で機材等を備え、多面的な活動に取り組んでいる。要請を受け近隣集落へも応援に行く。 月に4~5回の活動を行っている（非常に高い頻度） 森林整備だけでなく、子ども達の森あそびや薪づくりなど多様な活動を継続して実施している。 薪やチップの販売も手掛けている。特に竹パウダーを土壌改良剤や肥料としての活用を試みている。 	他地区の事例や森あそびへの助言多様な森林整備を確認し、今後の方向性を整理 森あそびや資源の活用 竹パウダーを活用した商品開発（有機農法等での活用）	門上 幸子 丹波の森研究所研究員 森林インストラクター
バイオマス丹波篠山	高橋隆治 篠山市垣屋 079-593-1150	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人バイオマス丹波篠山が主体となって「森の学び舎」という里山利用（レクリエーションや体験活動）を図ろうとしている。活動はこれからで、地域との連携も現在進めている段階である。 篠山市の公有地である 「大路こどもの森」や「ささやまの森」のような活動拠点づくりを想定しているようだ。 	通常の里山整備とは若干異なるが、西紀運動公園との連携も可能であり、レクリエーション主体の森づくりも意味がある。 （森の学び舎プロジェクトにプロデューサーとして内田氏が参画している）	内田 圭介 木材コーディネーター （神戸大学地域おこし協力隊コーディネーター）

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点	アドバイザー
北岡本自治会	黒田拓治 丹波市市島町 090-8829-3460	<ul style="list-style-type: none"> • これまでも自治会活動の一環として森林整備活動を実施しており、継続性については問題がない。 • 活動を通して森林の現況は把握しているが、整備のあり方については、アドバイザーの助言が必要。 • 活動対象エリアが70ha（個人有50ha）と広く、今後の活動を進めて行く上で、全体・年次計画が必要。 • 木の駅プロジェクトに参加 • チェーンソー講習会の場として活用 • 今後は、自然観察会やレクリエーションを含め、楽しめる森づくりの方向も検討が望まれる。 	参加者を広げる工夫が必要。 活動対象範囲が広く、林相に対応したゾーニング計画が必要 樹種更新など技術的サポートも必要	<p>H30 年度 門上 保雄 丹波の森研究所主任研究員 森林インストラクター</p> <p>H31 年度～ 別途、森林インストラクター等に引き継ぐ予定</p>
バイオマスフォーラム丹波	前川哲和 丹波市氷上町 090-4291-9644	<ul style="list-style-type: none"> • 子育て世代を応援する森あそび場を目指しており、現在の活動もそこに重点が置かれている。 • NPO のメンバーが主体となっており、地域との連携は希薄である。 • 森林を場として、で子どもを中心とした体験や環境学習を進めていきたいようである。 	環境学習や森のクラフト等のアドバイザーが適切。	<p>山崎 春人</p> <p>森林インストラクター 大路未来会議</p>
下三井庄自治会	松岡秀美 細見勝 丹波市春日町 090-1146-8554	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会の林野委員会が主体となって活動している。 • 住民参加型森林整備事業や森林・山村多面的機能発揮対策交付金などの補助制度を活用している。 • 道路（林道？）沿いの森林が整備対象となっており、いわゆる里山林縁部だけでありやや違和感がある。 • 地域内には「大路こどもの森」があり、そこで活動している森林インストラクターも本会に活動参加している。 	活動地について詳しく聞く必要があるが、活動については積極的である。 (活動団体内に森林インストラクターの山崎氏が参画している)	<p>山崎 春人</p> <p>森林インストラクター 大路未来会議</p>

3 里山ワークショップ

3-1 生郷里山づくり懇話会

(1) 令和元年度の生郷里山づくり懇話会の活動実績

- ・今年度、生郷里山づくり懇話会では、下記の一覧の通り活動を行い、アドバイザーとして会議および現地活動をサポートした。

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
4月11日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 計12人	第4回生郷里山づくり懇話会 ・昨年度の経過報告および今後の活動について ・丹波市農林整備課より情報提供
5月13日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市	第5回生郷里山づくり懇話会 ・水分れ資料館付近の森林整備に関する意見交換 ・丹波市農林整備課より情報提供
5月23日	千代田池周辺 東小裏山	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市	・水分れ資料館から千代田池を周遊する林内や土手を歩き、遊歩道設置について協議。 ・有志で東小裏山から愛宕山まで登山道を視察
6月11日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市	第6回生郷里山づくり懇話会 ・千代田池左岸の森林整備、作業道整備、獣害防護柵の付け替えなどについて
6月24日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市	第7回生郷里山づくり懇話会 ・森林組合による作業(6/14～)の進捗報告 ・他地域の遊歩道事例の報告など
10月16日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 計15人	第8回生郷里山づくり懇話会 ・遊歩道整備の今後のボランティア作業の計画、およびボランティア募集について ・獣害防止柵の計画進展状況などの確認
10月23日 10:00～	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 計10人	・遊歩道計画地周辺の現況(森林組合の委託事業の成果等)を確認 ・今後の遊歩道整備や森林ボランティア作業の順序などを相談
10月下旬	—	懇話会	生郷里山だより(Vol.1)発行、自治振興会配布
11月9日 10:00 ～16:00	市島町上鴨阪 の山林	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 計7人	よみうりテレビ 24時間テレビ「里山再生プロジェクト in 丹波 2019」のイベントを視察。現地のNPO法人などに、都市部からのボランティア受け入れなどについてヒアリング。

日 時	場 所	出席者(人数)	協議内容
11月12日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 計15人	第9回生郷里山づくり懇話会 ・里山再生プロジェクト in 丹波 2019 報告 ・遊歩道整備関連の進展状況 ・チェーンソー安全講習会の案内配布について
11月18日 13:00～	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー アドバイザー 他 計7人	懇話会メンバーと神社の神職らが集まり、現地山林から神社境内にかけて繁茂する竹を伐採。 ・遊歩道入り口付近に繁茂する竹の除間伐
12月10日 19:30～	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 計16人	第10回生郷里山づくり懇話会 ・チェーンソー安全講習会について ・1月の活動予定について
12月14日 ・15日 8:30～ 16:00	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー アドバイザー 講師 計10人	丹波市木の駅実行委員会に依頼し、チェーンソー安全講習会を開催。手ノコでの伐倒やチェーンソーの使い方を習いながら、現地の里山整備に関するアドバイスを受けた。
12月17日	—	懇話会	生郷里山だより Vol.2 発行
12月22日 13:00～	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー、 アドバイザー 計7人	年明けの1月に実施予定の4回の整備活動について、伐採する木の選木や、実際の作業内容案について、現地で相談した。
1月18日 ・19日	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー アドバイザー 木の駅実行委 延べ25人	丹波市木の駅実行委員会メンバーの応援を得て、いそべ神社裏から千代田池左岸にかけて、植林木や竹の除間伐、ベンチづくり、玉切りなどを実施。休憩時間に焚き火をたくなど、作業以外のレクリエーションも“お試し”した。
1月20日	—	懇話会	生郷里山だより Vol.3 発行
1月30日	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市	第11回生郷里山づくり懇話会 ・遊歩道づくりの進捗と、2～3月の予定 ・来年度への展開について
2月10日	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー アドバイザー	間伐作業の準備として、生育不良木などの伐採対象木の選木作業を実施した。
2月15日	現地(千代田池 周辺)	懇話会メンバー アドバイザー	千代田池左岸の獣害防護柵設置予定ライン周辺の不良木の伐倒・玉切り作業を実施。また、焚き火で竹の油抜き作業も行った。

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
2月16日	生郷交流会館	懇話会メンバー	雨天のため、現地作業の進捗確認と、今後の作業について相談。
2月27日	生郷交流会館	懇話会メンバー アドバイザー 丹波市 他	第12回生郷里山づくり懇話会 ・里山づくり活動の進捗報告と活動予定 ・獣害防護柵の設置スケジュールについて
2月29日	現地（千代田池周辺）	懇話会メンバー 木の駅実行委	丹波市木の駅実行委員会メンバー3名の応援を得て、針葉樹の間伐・玉切り、ベンチづくりなどを実施。
3月1日	現地（千代田池周辺）	懇話会メンバー 木の駅実行委	丹波市木の駅実行委員木メンバーの応援を得て、伐倒・玉切りをし、作業道付近まで運ぶなどの作業を実施。
3月14日	生郷交流会館	懇話会メンバー	雨天のため、前回までに伐倒・玉切りした木材を丹波市の木の駅に出荷する準備打合せを実施。
3月15日	現地（千代田池周辺）	懇話会メンバー 木の駅実行委	玉切りした丸太を、リヤカー等で道まで運びだし、軽トラックにて木の駅に出荷（約1t）
3月18日	—	懇話会	生郷里山だより Vo1.4 発行
3月22日	現地（千代田池周辺）	懇話会メンバー 木の駅実行委	前回に引き続き、木の駅への出荷を行った。また、遊歩道周辺の片づけなども実施した。

（2）活動状況

- ・今年度に行われた主な現地活動の様子を写真で紹介する。



[5月23日] 千代田池左岸にて、遊歩道設置について現地協議。竹林の様子。



[5月23日] 千代田池左岸にて、遊歩道設置について現地協議。植林地内。



[5月23日] 東小学校の裏山の遊歩道を視察



[5月23日] 東小裏から分水界の径への登山道



[5月23日] 城山展望所から石生水分れを見る眺望と看板



[5月23日] 分水界の径の看板。東小裏山から中央分水界の尾根に接続する山道がある



[11月18日] 水分れ資料館に隣接する竹林が密生していたため、竹の除間伐に着手した。



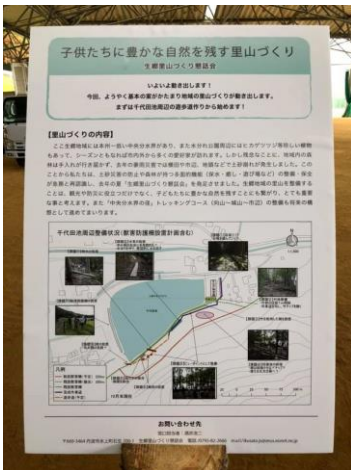
[11月18日] 竹林内は、密生しているだけでなく、枯死した竹も多く、処理に手間がかかる。



[11月18日] スギなどの大木と竹が入り混じって乱雑な印象となっている。除伐で美化する。



[11月18日] この竹林の竹は、隣接する神社で一部が活用されている。また、遊歩道などでも素材として利用することが話し合われた。そこで、竹の除間伐作業では、景観美化と同時に、持続的に利用できる竹林も目指す。



[11月30日]丹波の森を未来につなぐフォーラム 展示パネル



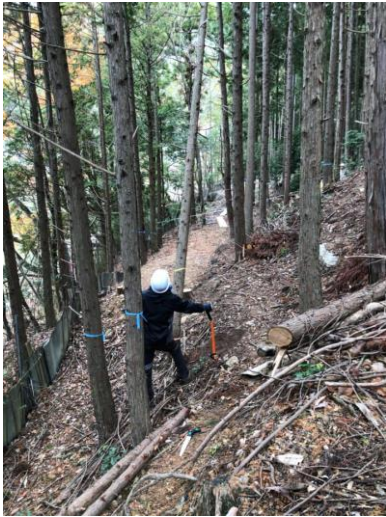
[11月30日] 丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体 認定証



[11月30日]丹波の森を未来につなぐフォーラム 発表風景



[12月7日・8日] チェーンソー安全講習会



[12月7日・8日] チェーンソー安全講習会
危険な場面についても、実作業を通じて学ぶ



[12月7日・8日] チェーンソー安全講習会
切り口から、安全な伐採技術を読み取る講義



[1月18日] 千代田池左岸での除間伐作業風景。伐倒した枯死木を前に、丹波市木の駅実行委員会からの応援メンバーが、懇話会メンバーに伐採に関するノウハウや注意点を伝えている。



[1月18日] 千代田池左岸での除間伐作業風景。高い位置にロープをかけて伐倒方向を安全にコントロールする方法を習いながら実施する様子。安全な活動のためには、安全講習会の受講にとどまらず、実践の中で繰り返し習う機会が重要と認識。



[1月18日] 千代田池左岸での除間伐作業風景。大きくなりすぎた木の伐倒は、無理をせず、技術を持った外部からの応援を得て実施。



[1月18日] 千代田池左岸の除間伐現場にて。玉切りした伐採木を二つに縦切りにして、ベンチづくりにも挑戦した。



[2月15日] 竹のやに抜き作業の様子。竹林の除間伐でできた竹材を焚き火で焙り、やにを拭き取る「やに抜き」作業に挑戦した。



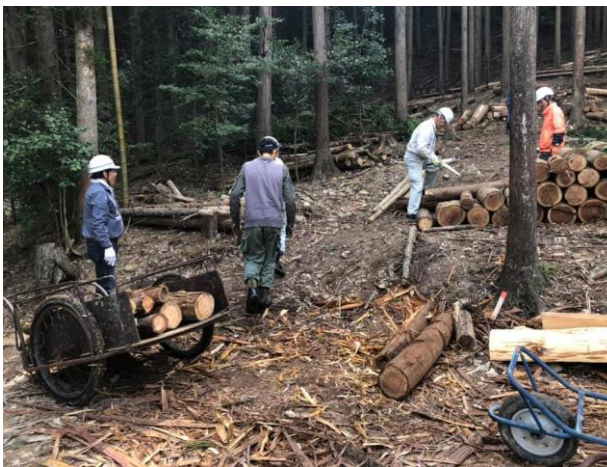
[2月15日] 水分れ資料館の際の竹林と藪を除間伐し、池周辺の美しい景観の再生に取り組む様子。



千代田池左岸、付け替え設置された獣害防護柵



丹波市木の駅へ出荷するために、玉切りされた除間伐木の様子。



[3月22日] 木の駅への出荷作業風景。千代田池左岸にて、除間伐して玉切りした木を、リヤカーに積んで運び出しているところ。



[3月22日] 木の駅への出荷作業風景。舗装路がないため、軽トラックまでリヤカーや一輪車で木を運ぶ様子。

(4) 生郷里山づくり30年計画とアクションプラン

① 30年先を見据えた生郷の里山づくり

- ・生郷地区の一番の課題は、地元の里山に関心ある人が少ないことである。向山のヒカゲツツジ群落などは阪神間からのハイキング客にとっても人気があり、毎年のように雑誌に取り上げられるが、逆に地元住民は、向山を含む身近な里山には普段ほとんど立ち入っておらず、森林の保全や整備の活動に参加した経験を持つ人も、非常に少なくなっている。また、古くからの商店街など丹波市有数の人口密集地や産業拠点を抱えているため、もともと里山と関わりの薄い非農家が多いことも、地域の特徴である。
- ・そうした背景の中、約1年半に渡って、懇話会メンバーを中心に、小学校や地元の諸団体にも呼びかけ、議論を重ねてきた。そして昨年末から、ようやく懇話会として竹林整備や間伐など具体的な現地活動を始めるに至った。
- ・しかしながら、懇話会のコアメンバーの中でも、「まだ生郷地域全体の里山をイメージすることができない」「里山づくりに、この地区から多くの住民が本当に参加できるのか」「自分達に活動経験が少ないため、まだまだ勉強不足」などの意見が少なくなかった。
- ・その結果、今年度末の2月下旬の時点でも、懇話会が生郷地区を代表して『地域の里山の30年後の姿』を取りまとめる、というのは時期尚早ではないか、との慎重意見が多かった。そこで、最終的に、懇話会では今後の生郷の里山づくりでコアとなるコンセプトについて話し合い、30年後の豊かな里山をめざす上で、3つの柱となるコンセプトをまとめた。

【生郷地域の里山づくり 3つの柱】

<1>水分れ周辺の親しみやすい遊歩道・里山づくり

- ・水分れ資料館・千代田池周辺を中心として、来館者が気軽に散策できる親しみやすい遊歩道・里山づくり

<2>災害に強い里山づくり

- ・地元住民・自治会が中心となって取り組む、災害に強い里山づくり

<3>「中央分水界の径」を活かした多様な連携による里山づくり

- ・穴裏峠から栗柄峠までを結ぶ「中央分水界の径」沿いで、様々な里山活動団体や自治会、小学校などと連携し、「中央分水界の径」で繋がる多彩で楽しい里山をつくっていく、地域縦断型の里山づくり

- ・この3つの柱は、生郷地区の里山づくりにおいて、互いに関係しながら長期的に取り組んでいくテーマである。次ページに、地図上の関係性を整理した。地図内の①～⑤の凡例は、具体的な課題と取り組み方法の目安として区分したものである。例えば、<1>水分れ周辺の親しみやすい遊歩道・里山づくりは、主に水分れ資料館・千代田池・水分れ公園周辺の①のエリア（地域のマンパワーで整備活動を計画する区域）で実施するが、取り組みを長期的に進めれば、④のエリア（登山道・ハイキングコース等既存ルートの維持管理区域）にも繋がっていく。<2>災害に強い里山づくりは、当然⑤のエリア（7月豪雨災害及び台風12号において被災した区域）の公的な緊急対策を含むが、長期的には、集落に隣接する②や③のエリア（造林事業等の公的森林整備を進める区域）で住民が主体的に防災意識と森林への理解を深め、自治会として災害に強い里山をめざして公的森林整備に取り組んでいくことを想定している。その中で、東小学校の裏山付近（②のエリア）は、自治会等が公的森林整備で

災害に強い里山づくりに取り組んだ後、小学生が里山と防災について学べるフィールドとして持続的に手を加えていくことを想定したエリアである。〈3〉「中央分水界の径」を活かした多様な連携による里山づくりは、丹波市観光協会がハイキングマップでも紹介しているハイキング道「中央分水界の径」（青垣町の穴裏峠～春日町の栗柄峠）に注目している。本州一低い水分れの谷中分水界を中心に、中央分水界が生郷地区を縦断することから、まずは「中央分水界の径」の地区内の部分を修復やブラッシュアップする活動を行いつつ（④のエリア：登山道、ハイキングコース等既存ルートの維持管理区域）、将来的には、地区外でこの道に隣接する様々な自治会や自治振興会などの里山活動とも交流・連携して、イベントなどを共同企画・共同発信することを目指そうとするものである。

以上の3つの柱を軸に、段階的に取り組み、徐々に担い手となる人材を増やしていくことが、生郷地区における持続可能な里山づくりの根幹である、との結論に至った。

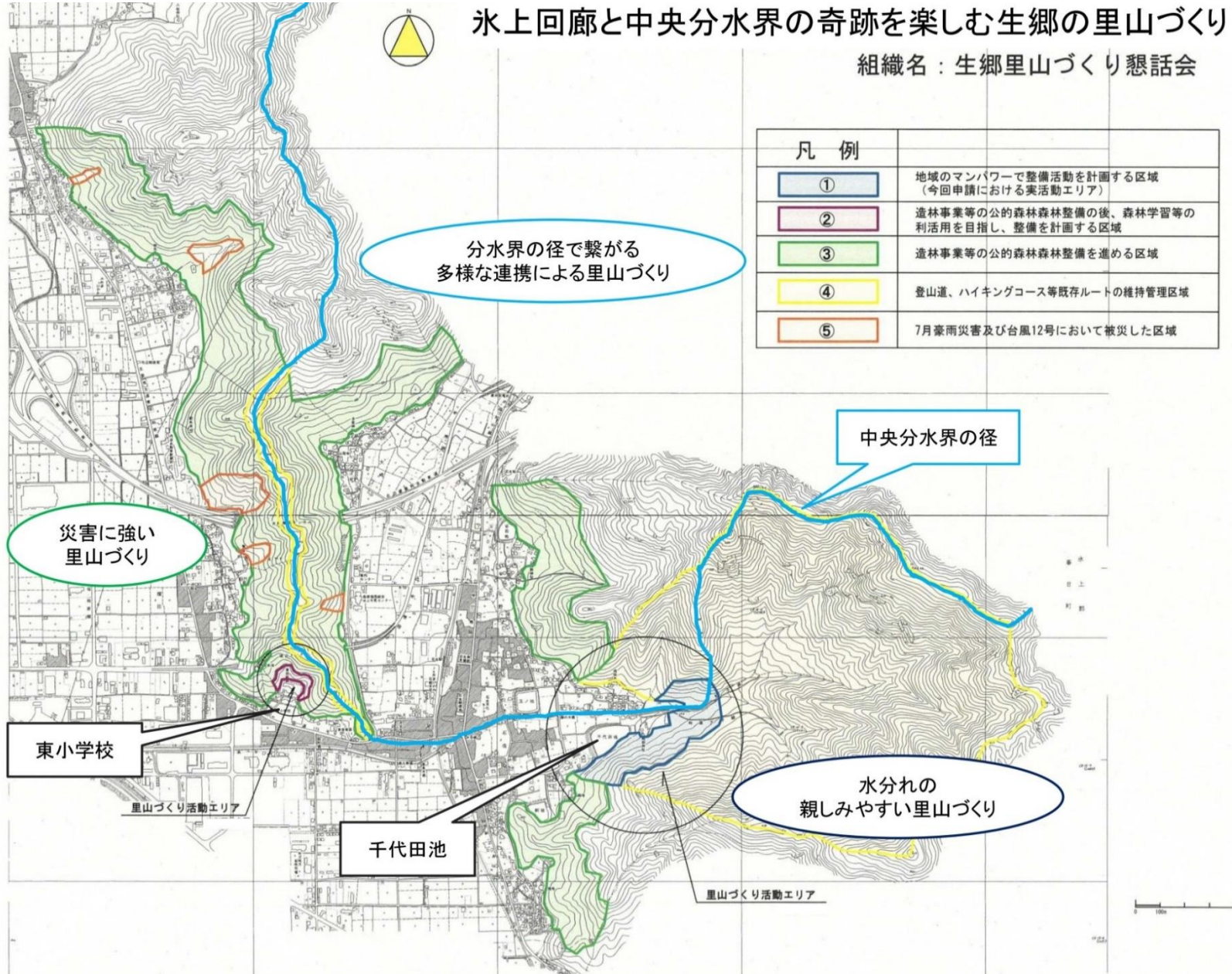
② アクションプラン

前項の「生郷地域の里山づくり 3つの柱」について、段階的に取り組む。

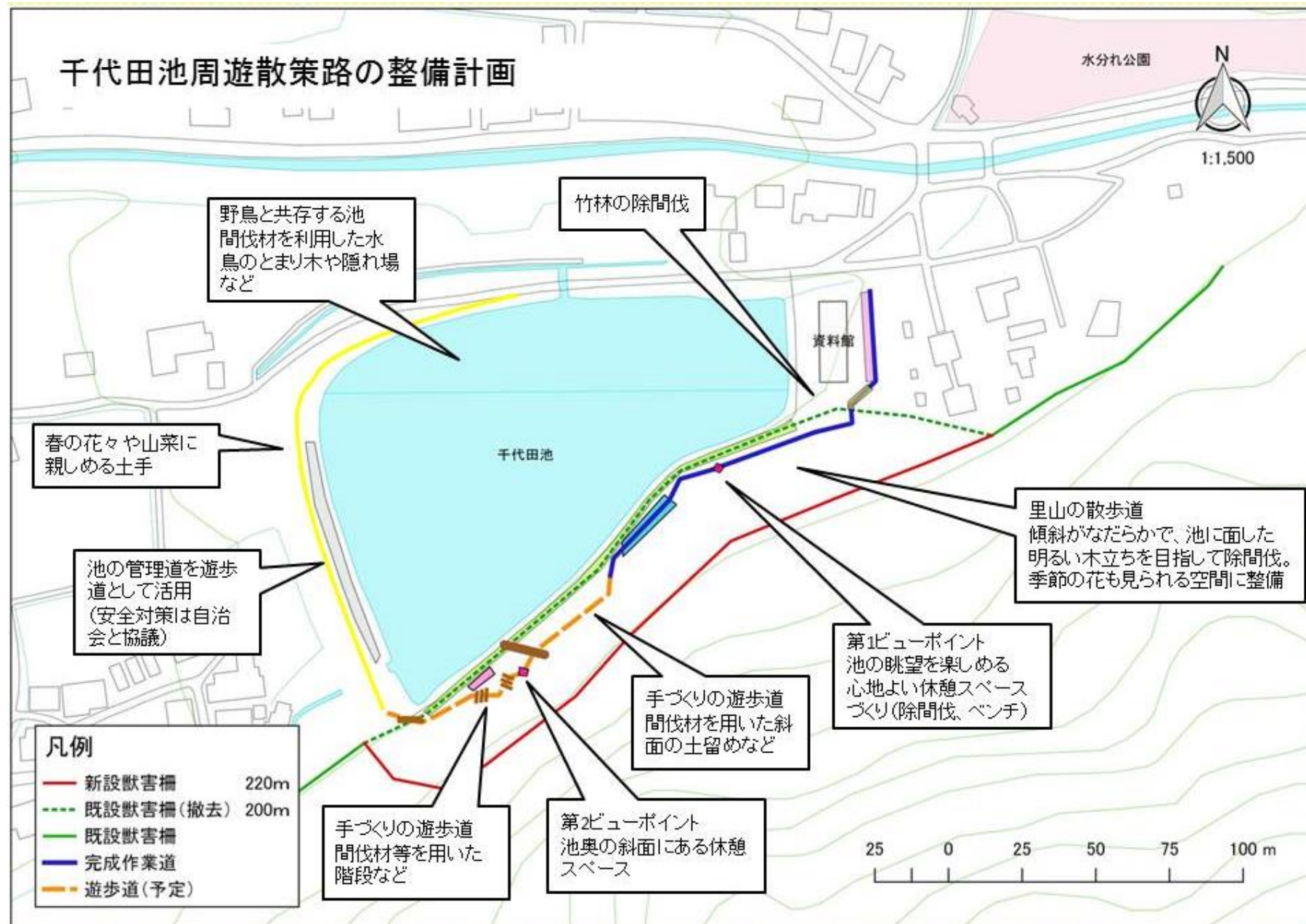
〈1〉水分れ周辺の親しみやすい遊歩道・里山づくり **★★令和2年度の重点活動★★**

- ・昨年から、まずは千代田池を周遊できる遊歩道を令和3年2月までに整備し、翌3月の水分れ資料館リニューアルオープン時にお披露目することを目指す。
- ・また、この水分れ周辺の親しみやすい遊歩道・里山は、水分れ資料館のリニューアル後は、生郷を象徴する水分れの里山として広く知ってもらえる場となるので、遊歩道完成後は、向山連山に続く周囲の里山も含めて、持続的に活用しながら育てていく里山をめざす。
- ・そしてここでは、常に新しい訪問者が居る里山を想定し、初心者でも親しみやすい活動を特に心がけて、初めてでも安全に里山を楽しむノウハウを身に付けられる人材育成の里山をめざす。

■里山づくり30年計画



千代田池周遊散策路の整備計画



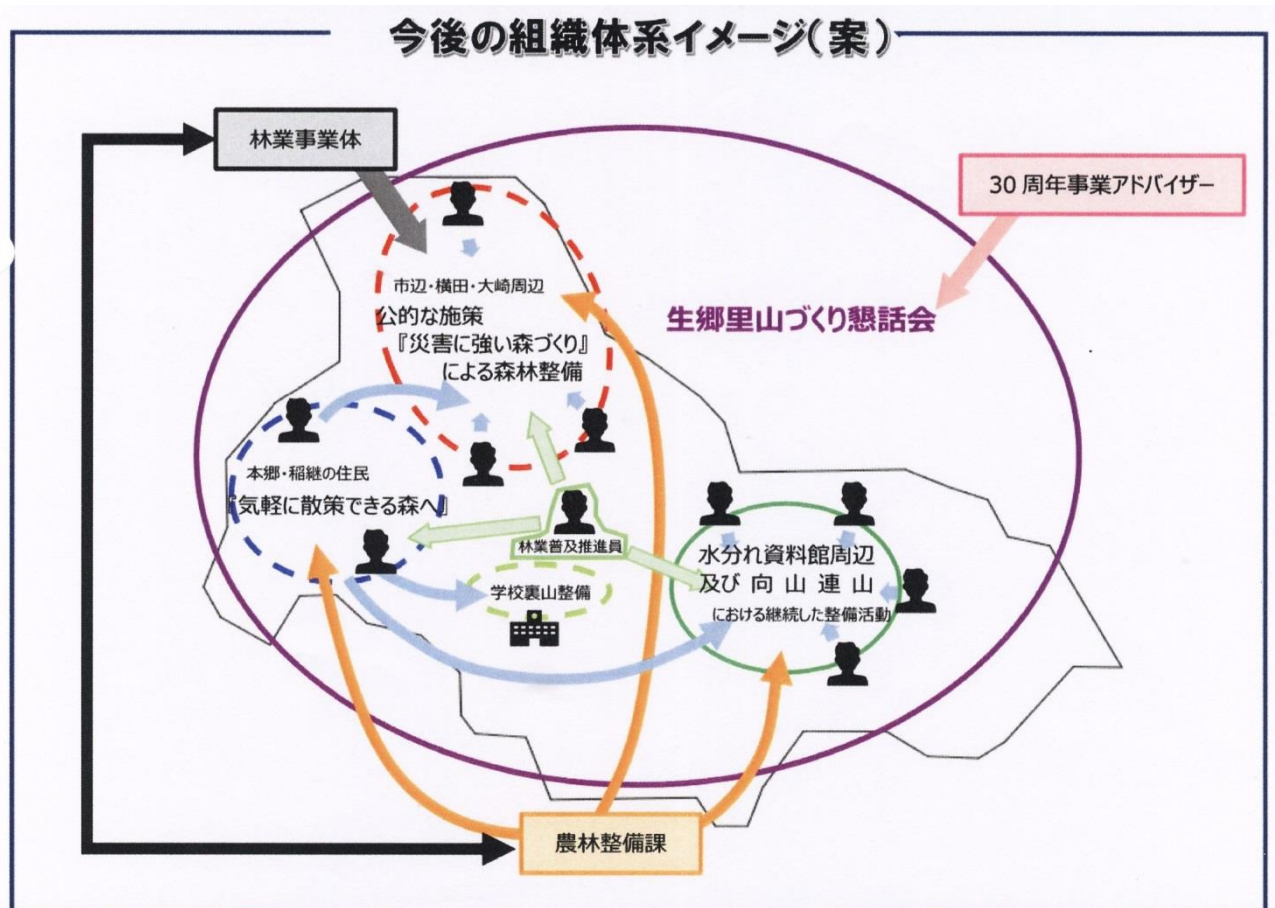
〈2〉災害に強い里山づくり

令和2年度からは、下記の組織体系イメージのように、水分れ資料館周辺での活動と並行して、災害に強い里山づくりにも、様々な主体と連携して取り組むことをめざす。

具体的には、近年土砂災害を経験した市辺・横田・大崎周辺の森林などを中心に、公的な施策『災害に強い森づくり』事業などによる森林整備に自治会が取り組めるように、林業普及推進員やアドバイザーがサポートする体制をつくっていく。住民が主体となって考えながら、プロ（林業事業体）の力も借りて災害に強い里山を実現することで、住民が自分の生活圏の一部として意識する里山をめざす。

次に、整備後には、林業普及推進員らが仲介役となって、小学校や生郷地区の住民が気軽に散歩したり学習したりできる里山へと、さらに発展していくように活動をすすめていく。

最終的には、生郷全体の住民が、集落に隣接する身近な里山を、健康やレクリエーションの場として日常的に利用し、来客にも自慢したくなるような、災害に強く楽しい里山をめざす。



図：令和2年度以降の組織体系のイメージ（1月30日会議資料より）

〈3〉「中央分水界の径」を活かした多様な連携による里山づくり

- 「中央分水界の径」は、もともと、氷上高年低山会がルートを整備し、他の登山愛好グループなども協力して維持してきたハイキングコースであり、丹波市観光協会よりハイキングマップとして紹介されている。
- 懇話会では、まず、このルートの再整備を行いたいと考えている。老朽化した看板のつけかえや、藪が発達して景観が悪くなったビューポイント周辺の伐採をするなど、コースの魅力を磨き直し、新たな来訪者に喜んでもらえるように整えることを第一段階と捉えている。
- 次に、〈2〉で目標のひとつに挙げた集落に隣接する「気軽に散策できる森」や集落近辺の史跡、ビューポイントなどと「中央分水界の径」とを結ぶアクセス登山道の整備を行う。生郷地区では、「中央分水界の径」上にある横田山遺跡を含めて、里山の中にある史跡も多数あり、そうした歴史ウォークと自然ウォークとを織り交ぜたネットワーク状の散策路も整備しようと想定している。
- ここでは、活動主体は、災害に強い森づくりでも主体となる地元自治会や地元有志が中心となり、懇話会を通じて広域のボランティアが協力する、という協働をイメージしている。
- 更に広域では、穴裏峠から栗柄峠までの「中央分水界の径」ルート上には、現在も活発な里山活動を行っている自治会や有志グループが多数あり、丹波市内だけでなく丹波篠山市や福知山市側の団体との協力も視野に入る。そうした多様な団体と連携し、「中央分水界の径」を活かした協働発信や共通のイベントを企画することで、丹波市内外の人たちへの発信力を高めつつ、互いにノウハウの共有や多様な刺激を受けて、このエリア全体の里山の魅力が高まることを目指していく。この連携による里山づくりによって、30年後に向けた生郷地区らしい里山づくりと人材育成は、持続可能な開かれたものになっていくと考えられる。

生郷里山だより vol.1

「生郷里山づくり」って??



ここ生郷地域には本州一低い中央分水界があり、また水分れ公園周辺にはヒカゲツツジ等珍しい植物もあって、シーズンともなれば市内外から多くの愛好家が訪れます。しかし残念なことに、地域内の森林は手入れが行き届かず、去年の豪雨災害では横田や市辺、地頭などで土砂崩れが発生しました。このことから私たちは、土砂災害の防止や森林が持つ多面的機能(保水・癒し・遊び場など)の整備・保全が急務と再認識し、去年の夏「生郷里山づくり懇話会」を発足させました。生郷地域の里山を整備することは、観光や防災に役立つだけでなく、子どもたちに豊かな自然を残すことにも繋がり、とても重要な事と考えます。また「中央分水界の径」トレッキングコース(向山~城山~市辺)の整備も将来の構想として進めてまいります。

これらのことから、今後の生郷里山づくりにご理解、ご協力をいただき、たくさんの地域の方々に関わって頂けるようによろしくお願いいたします。

生郷の子どもたちに素晴らしい里山を残せるよう、今私たちができることを一緒に楽しくやりませんか?!



いよいよ動き出します!!

これまでの懇話会では、専門家の多面的なアドバイスをいただきながら将来につながる里山整備を考えてきました。今回、兵庫県並びに丹波市の協力を得て、ようやく基本の案がかたまり地域の里山づくりが動き出します。

まずは千代田池周辺の遊歩道作りから始めます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

① リニューアル工事の水分れ資料館裏の竹林の整備

11/18(月) 13:00~16:00

11/24(日) 9:00~12:00

11/25(月) 13:00~16:00

持ち物

- ・ノコギリ・ナタなど
- ・ある方はヘルメット

② チェーンソー安全講習会

12/14(土)・15(日)

2日間で**装備や法令、実習**(基本動作・玉切り・伐倒など)を行います。木の駅プロジェクトに登録し活動に参加する事を条件に通常 16,000 円が**1,000 円の参加費で受講 OK!**

先着 10 名まで。(11 月末〆切)

場所は千代田池周辺の山林にて



生郷自治振興会

69-3464 丹波市氷上町石生 700-1

TEL/FAX 0795-82-2666

e-mail ikusato.js@zeus.eonet.ne.jp

生郷里山だより Vol. 2 R1.12.17

早いもので、令和元年も残りわずかとなりました。こういう節目の時に生郷の里山整備を始めることができ、たいへん嬉しく思います。始まったばかりの活動ですが、これからも色々な人たちに御協力いただきながら、未永く続けていけるよう頑張ります!! 来年もどうぞよろしくお祈りします。

これまでの経過

*11/18(月)24(日) 遊歩道整備
(千代田池周辺)

資料館横の竹林を伐採しました。
なお25日は雨天のため中止でした。



*11/30(土) 「丹波の森を未来につなぐフォーラム」
(グリーンベル青垣)

生郷里山整備の取り組みについて発表し
認定証をいただきました。

丹波市内の他地域の里山づくりとも連携して、これからも活動を活発化していきましょう!!



*12/7(土) 丹波市木の駅プロジェクト
による講習会(交流会館・千代田池周辺)
木の駅Pのスタッフの方々より、山の作業
について講義を聞き現地で作業をしました。



*12/14(土)15(日)チェーンソー講習会
(千代田池周辺)

7日同様、木の駅Pの方々よりチェーンソーの取り扱いについて聞き、実際に千代田池周辺の遊歩道整備として木を伐りました。



これからの予定

*千代田池周辺の遊歩道整備をします! 持ち物
令和2年1/18(土)19(日)25(土)26(日)
9:30~11:30と13:30~15:30 ノコギリ・ナタなど
水分れ資料館前集合 ヘルメット・手袋

どこか一日でもいいので、お手伝いお願いします!
暖かい飲み物など用意してお待ちしています!! 来てネ!



生郷自治振興会

669-3464 丹波市氷上町石生 700-1
TEL/FAX 0795-82-2666

生郷里山だより Vol. 3 R2.1.20

穏やかに令和2年が始まりました！生郷里山だよりは、今年も里山整備について分かり易く楽しい記事をお届けしたいと思います。

さて、昔から1月は「行く」2月は「逃げる」3月は「去る」と言うように、春はすぐそこです。しかし私達は草たちが芽吹く前の、この3カ月がとても重要と考え、作業を急いでいます。今後できるだけ多くの方たちにお手伝いいただき、千代田池周辺の整備を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



丹波市木の駅プロジェクトって？

里山だより vol.1 で少し触れましたが、私たちの活動を支援して下さっているのが「丹波市木の駅プロジェクト」です。

平成27年9月に始まったこのプロジェクトは、市内の森林を保全し森林資源を活用しながら、豊かで健康的な地域の森林を次世代に引き継ぎ、地域の活性化につなげる市民参加型の取り組みです。

森林整備で伐採された木を出荷し、それをチップや薪などの自然エネルギーとして循環させる。このように大切な資源を有効活用する地域作りを目指し、里山が大好きな人々がボランティアで活動する団体です。前回掲載した通り、12月には伐倒の講習会やチェーンソー講習会を実施し、参加者はプロジェクトの一員となりました。また1/18には大きな木の伐採に急ぎょ駆けつけて下さり、本当に心強い存在です。これから色々ご相談やお手伝いをお願いしながら、里山整備を進めていく予定ですので、どうかご理解ご協力のほどよろしくお願い致します!!



これまでの経過

*12/22(日) 千代田池遊歩道整備

それまでに伐採した竹を移動させ、遊歩道の入り口付近のスペースを確保。



*1/18(土)19(日)25(土)26(日)

千代田池遊歩道整備

チェーンソーで不用の大きな木を伐採し出荷用に切り揃える。



ベンチ用に使用する丸太の木の皮を剥ぐ(女性でもOK!)



*1/18,19の2日間で延べ25の方が参加して下さい、コーヒーやおぜんざいなどで温まりながら作業をしました!!

これからの予定

*2/15(土)16(日)29(土) 3/1(日)14(土)15(日)

午前9:30~11:30 午後1:30~3:30 千代田池遊歩道整備

*春までに計6回の予定で、遊歩道を整備していきます。

たくさんのお手伝いをお待ちしています!

持ち物

- ・ノコギリ ・ナタ等
- ・手袋 ・ヘルメット

生郷自治振興会

669-3464 丹波市氷上町石生 700-1
TEL/FAX 0795-82-2666

生郷里山だより Vol. 4 R2.3.18

今年は暖冬の影響で、ここ生郷でも早や桜が咲き始め春本番を迎えつつあります。里山づくり懇話会では3月中を1つの区切りとして千代田池周辺の里山整備を進めてきました。特に1月からは木の駅プロジェクト（以後、木の駅P）の支援もあり、竹や針葉樹を中心にかんりの伐採を行いました。また新しい害獣柵の工事も終わり、水分れ資料館奥はスッキリとした林に生まれ変わりました。しかしこの遊歩道整備はまだ来年度も続き、最終的には千代田池を一周できるよう計画しています。

これからも皆様のご理解ご協力のもと、できるだけ地域の皆さんと共に活動を進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

今年度の活動の流れ

里山づくり懇話会では昨年4月から8回の会合を開き、生郷の里山づくりをどの様に進めるかを話し合ってきました。まずは、水分れ資料館のリニューアルに伴う千代田池周辺の整備をするために、夏までは市の農林整備課と協議をしながら工事を進め、秋からは里山づくり懇話会が中心になって木の駅Pの支援（特に木の伐採）もいただきながら、コツコツと人力で地域の皆さんと共に整備を進めてきました。具体的には、この「生郷里山だより vol.1~4」でお知らせした通りです。

これからも、この遊歩道が地域の皆さんの憩いの場となるように、また新たにオープン予定の「水分れ茶屋」とも連携して、たくさんの観光客を呼び込めるような素敵な場所になるように、共に頑張りましょう!!

2.3月の千代田池遊歩道整備について

- *2/15(土) 新設柵周辺の伐倒・玉切りと竹の油抜き。
- *2/16(日) 雨天。今後について話し合う。(交流会館)
- *2/29(土) 木の駅Pから3人の応援。
伐倒と玉切り。
ベンチ用に木の皮剥ぎ。人と自然の博物館の三橋弘宗氏、視察。
- *3/1(日) 木の駅Pの応援で伐倒・玉切り。
新設柵より上の伐倒木を下へ移動。
- *3/14(土) 雨天。害獣柵の工事完了。出荷について話し合う。(交流会館)
- *3/15(日) 玉切りした丸太を、リヤカーや一輪車で資料館入り口まで運び出し軽トラ3台分(約1t)を午前と午後の計2回搬出。
- *3/22(日) 出荷と片付けなど。



**4月からも里山整備を続けます！
作業日には多くの方の参加をお待ちしています!!**

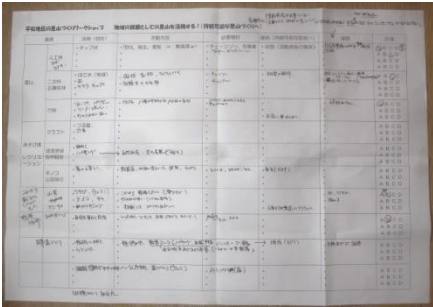


生郷自治振興会

669-3464 丹波市氷上町石生 700-1
TEL/FAX 0795-82-2666

3-2 平松区森林愛好会

(1) 実績報告

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
8月6日 13:30～	丹波県民局	アドバイザー 県民局 計7人	第2回里山づくりアドバイザー会議 ・各地区昨年度の報告今 ・年度業務委託内容、アドバイザー就任依頼
11月17日 16:00～	平松公民館	2人	・今年度のアドバイザーの目的 「里山づくり30年計画」策定について 概要イメージで説明 ・県民局、市農林が参加する協議会の設置 ・里山アドバイザーに期待する里山整備の方向 性や技術指導を希望している。平松区では経 験も多く、求めている内容もかなり高レベル であり、今後、基礎調査や外部技術アドバイ ザーの派遣が必要である。
12月8日 10:00～	活動地／愛宕 山	植樹祭 森林愛好会 自治会 計21人	・地元住民も参加した植樹会 
12月8日 17:00～	平松公民館	委員長他11人	・活動内容の確認と課題整理についてワークシ ョップを行った 
2020年 1月25日	活動地	里山育成研修会	・モデル林での里山づくり実習
1月25日 17:00～	平松公民館	委員長他12人	・前回のワークショップを振り返り、今後の活 動方針について意見交換した。

(2) ワークショップ (12月8日、10:00~12:00、17:00~19:00)

- 前半は、地域の子供たちも参加して広見寺西の愛宕山東側斜面地にサクラ、モミジ、クヌギ、アジサイ等を植栽した。



- 里山の資源を「人工林 (スギ、ヒノキ)」、「二次林 (広葉樹)」、「竹林」に分類し、それぞれの活用目標、具体的の活動内容、課題等についてワークショップを行った。
- また、里山の恵みとしての楽しみとしての自然観察、クラフトづくり、山菜の栽培等についてワークショップを行った。

平松地区の里山づくりワークショップ 地域の資源としての里山を活用する! (持続可能な里山づくりへ)

資源	活用(目的)	活動内容	必要機材	継続(持続可能な取組へ)	課題	区域
里山	人工林 スギ ヒノキ	・チップ材 ・間伐、搬出、運搬 ⇒ 集積場	・チェーンソー、作業車 ・クレーン、フォークリフト	・収益(活動資金の確保)	・作業の確保 ・作業の確保 ・作業の確保	△ B C D E A B C D A B C D A B C D
	二次林 広葉樹林	・ほだ木(椎茸) ・薪 ・ヤナギチップ	・伐倒機、チェーンソー ・伐木機、チップ機	・文化祭の開催	・文化祭の開催 ・文化祭の開催	A B C D A B C D A B C D A B C D
	竹林	・薪 ・チップ材 ・竹の活用	・伐倒機、チェーンソー ・竹の活用	・竹の活用	・竹の活用	△ A B C D A B C D A B C D
あそび場 レクリエーション	クラフト	・つる籠 ・竹	・	・	・	A B C D A B C D A B C D
	環境学習 自然観察	・植物 ・ハイキング → 自然観察、木の観察(子ども)	・	・	・	A B C D A B C D A B C D
キノコ 山菜採り	・キノコ ・山菜採り	・キノコ採り、山菜採り、キノコ、キノコ	・スコップ、バケツ	・毎年(4月)	・	A B C D A B C D A B C D
山菜 キノコ アジサイ	・アジサイ、キノコ ・キノコ、キノコ ・キノコ、キノコ	・キノコ採り、山菜採り、キノコ採り、山菜採り ・キノコ採り、山菜採り、キノコ採り、山菜採り	・	・	・山菜採り、キノコ採り	A B C D A B C D A B C D
山菜 キノコ	・山菜採り ・キノコ採り	・山菜採り、キノコ採り、山菜採り、キノコ採り	・	・	・	A B C D A B C D A B C D
山菜 キノコ	・山菜採り ・キノコ採り	・山菜採り、キノコ採り、山菜採り、キノコ採り	・	・	・	A B C D A B C D A B C D
山菜 キノコ	・山菜採り ・キノコ採り	・山菜採り、キノコ採り、山菜採り、キノコ採り	・	・	・	A B C D A B C D A B C D

山菜採り(山菜)

平松区森林愛好会の里山づくり目標「地域の資源としての里山を活用する！（持続可能な里山づくりへ）」

（令和元年12月8日のワークショップに基づき作成）

分類		活用（目的）	活動内容	必要機材	継続（持続可能な取組）	課題
里山	人工林	・チップ材として販売	・間伐、搬出、運搬 ⇒ 集積場 ・木の駅プロジェクトが木材運搬を一括して実施する方向を提案する ⇒他地域も参加しやすい	・林内作業車 チェーンソー	・収益あり （活動資金の確保）	・作業道の整備 ・伐採地の更新 ・優良人工林の育成 （長伐期⇒木材販売）
	二次林 広葉樹林	・ほだ木（椎茸） ・薪 ・桜チップ	・伐採（玉切り）、シイタケ栽培 ・伐採木の活用 ・伐採木の活用	・チェーンソー ・チップパー	・地域の文化祭で配布 ・薪にして販売 ・桜チップの販売 （活動資金の確保）	・栽培量の増加？ 栽培場所の確保 乾シイタケづくり？ ・広葉樹の植樹？
	竹林	・チップ ・材の活用	・伐採 ⇒ チップ ・竹馬、そーめん流し用の樋 クラフト（器、皿）	・チップパー（パウダー用の機械もある） ・ノコギリ、ナタ、キリ	・収益あり （活動資金の確保） ・地域連携	・竹林の育成 （持続的伐採手法の検討） ・指導員の確保・養成
	林内道	・林内作業道 ・遊歩道	・間伐、搬出用 ・公民館～四阿の遊歩道の整備 ・ハイキングやウォーキング、自然観察等に活用できるように整備	・道普請用の道具 ・刈り払い機 ・案内板、サインなど ・階段整備用資材	・維持管理（点検・修繕） ・資材・機材の購入 ・ハイキングのルートとして活用	・みちマップ、自然ガイドマップなどの作成
里山の恵み	自然観察 クラフト	・ハイキング ・ツル籠、リース、スワッグ	・自然観察：春の山菜取り 秋の山菜・キノコ狩り ・樹木札（植物名）づくり ・ツル、松ぼっくり、どんぐり、木の実などを集める	・食事会（天ぷら、炊き込みご飯など） ・札用の板、筆記具 ・クラフト機材	・地域の行事として定着化 ・木の実交換会などの仕掛けづくり	・自治会の協力 ・女性の参加
	栽培計画	・山菜の栽培 ・プリザーブドフラワー用材	・葉ワサビ、クレソン、タラの芽 ナメコ ・アジサイの植栽	・栽培地の確保 ・機材（ビニールハウス等） ・栽培方法	・試験栽培の実施 ・栽培可能種の設定 ・販売ルートの確保	・管理（栽培）の確保
自治会との連携	自治会行事	・季節の飾り作成	・正月（しめ縄、ミニ門松づくり） ウラジロ、ナンテン ・クリスマス（リース、スワッグ）	・工具	・材料費（参加費）の確保	・自治会の協力 ・女性の参加 ・

(3) ワークショップ (令和2年1月25日、10:00~15:00、16:00~18:00)

①里山育成研修会

- ・前半は、里山育成研修会が実施され、それぞれの活動エリアおよび活動内容の紹介とデモンストレーションが行われた。



薪割り機



木材集積場とトラクターを改良した運搬車



滝谷上流ゾーンから黒井城址を見る



滝谷上流ゾーンの人工林 (間伐を行っていく)



風倒木の処理



玉切した材の林内作業車への積み込み



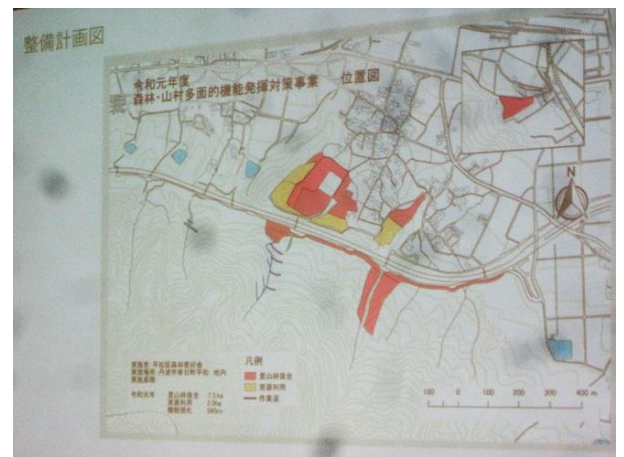
作業道づくり（滝谷上流ゾーン／高速道南側）



間伐された人工林（滝谷ゾーン／高速道北側）



竹のチップ化



森林・山村多面的機能発揮対策事業計画図

②ワークショップ

- 前回のワークショップを振り返るとともに、活動内容および活動ゾーンを確認した。
- また、意見交換の中で提案された事項を加え表に整理した。
- 上記の内容を反映した今後の活動方針を「里山づくり 30 年計画」としてまとめた。



ワークショップ

■平松地区の里山づくり基本方針

【背景】

- ・30年ほど前は、財産区として山の日役等で里山管理を行い守ってきたが、樹木の大径木化により地域住民のみでの整備が困難となり、樹木が密集し、荒廃した。

【基本方針】

- ・里山を地域の資源として活用できるよう安全、安心、快適な里山環境整備を行う。
- ・森林資源を活かす活動の高度化を図る。
- ・人と自然とのふれあいの場を整備する。
- ・森林資源を活用し、地域コミュニティの再生に着目した活動を行う。

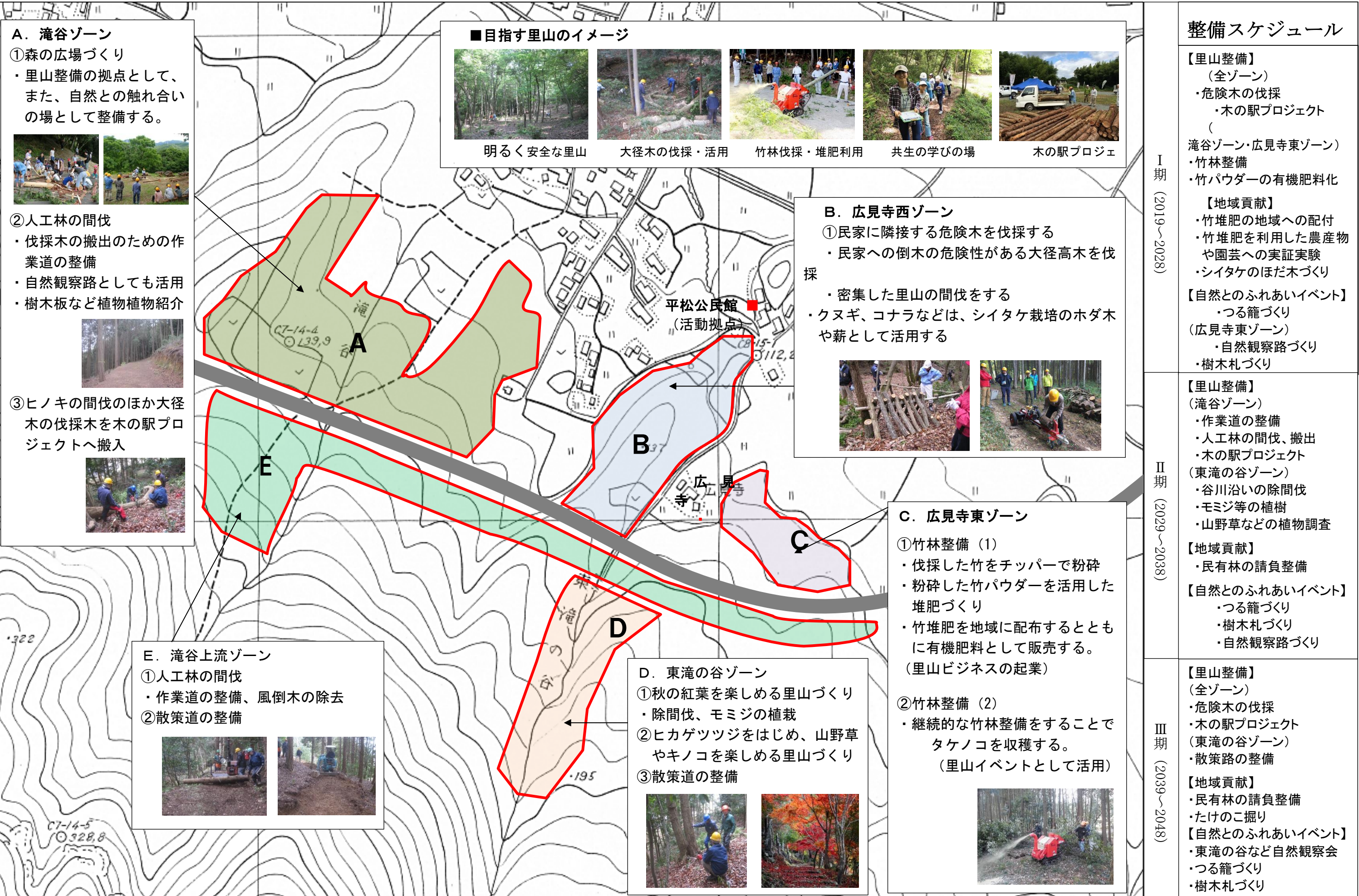
■里山づくり協議会の設置

- ・地域が一体となって里山づくりを推進するため、地域の活動組織とともに、丹波県民局、市、丹波の森研究所などの専門家による里山づくり協議会（サポート体制）を設置する。
- ・サポート体制の主な構成と役割は、行政担当部局及び森林組合等による技術的サポート、丹波の森研究所研究員や森林インストラクターなどを里山づくりアドバイザーとし、アドバイザーによる里山づくり計画や実施計画、また地域住民の活動参加促進のためのイベント企画等を提案する。

平松区森林愛好会 里山づくり30年計画「地域の資源としての里山を活用する！」

分類		活用(目的)	活動内容	継続(持続可能な取組へ)	課題
里山の資源	人工林	・ヒノキ、スギをチップ材として販売	・伐採⇒玉切り ⇒林内作業車⇒搬出 ・集積場へ運搬(レンタカー)	・安全管理(作業手順、器材、服装など) ・収益あり(活動資金の確保) ※木の駅プロジェクトが木材運搬を一括実施する方向を提案⇒他地域と連携	・運搬方法(費用) ・優良人工林の育成(長伐期⇒木材販売) ・伐採地の更新(植樹?)
	二次林 広葉樹林	・ほだ木(椎茸) ・薪 ・桜チップ	・伐採(玉切り)、シイタケ栽培 ・伐採木の活用 ・伐採木の活用	・地域の文化祭で配布 ・薪にして販売 ・桜チップの販売 (活動資金の確保)	・栽培量の増加? 栽培場所の確保 乾シイタケづくり? ・広葉樹の植樹?
	竹林	・竹チップ ・材の活用	・伐採⇒チップ⇒販売 ・竹馬、そーめん流し用の樋クラフト(器、皿)	・収益あり(活動資金の確保) ・竹チップの活用を広げる ・ノコギリ、ナタ、キリ・地域連携	・竹林の育成(持続的伐採) ・竹チップの肥料化 ・指導員の確保・養成
	林内道	・林内作業道 ・遊歩道	・間伐、搬出用 ・ハイキングやウォーキング、自然観察等に活用・整備 ・公民館～四阿の遊歩道の整備	・維持管理(点検・修繕) ・資材・機材の購入 ・ハイキングのルートとして活用 ・案内板、サインなど ・階段整備用資材	・みちマップ、自然ガイドマップなどの作成
里山の恵み	自然観察 環境学習	・ウォーキング ハイキング	・自然観察:春の山菜採り 秋の山菜・キノコ狩り ・樹木札(植物名)づくり	・地域の行事として定着化 ・食事会(天ぷら、炊き込みご飯など) ・礼用の板、筆記具	・自治会と連携⇒自治会行事に位置付け ・女性陣の参加
	クラフト	・季節の飾り作成	・ツル籠、リースづくりなど ・正月(しめ縄、ミニ門松など) ・ツル、松ぼっくり、どんぐり、木の実などを集める	・材料集めから参加形式とする ・木の実交換会などの仕掛けづくり ・ウラジロ、ナンテン等の採取場の確保 ・クラフト機材	・自治会と連携⇒自治会行事に位置付け ・女性陣の参加
	栽培計画	・山菜の栽培 ・プリザーブドフラワー用材植物	・ワサビ、クレソン、タラの芽 葉ワサビ、ナメコなど ・アジサイの植栽	・試験栽培の実施 ・栽培可能種の設定 ・販売ルートの確保・栽培地の確保 ・機材(ビニールハウス等) ・栽培方法	・管理(栽培)体制の整備 ・新たな参加者への呼びかけ

平松区森林愛好会 里山づくり30年計画 「地域の資源としての里山を活用する！」



A. 滝谷ゾーン

①森の広場づくり
・里山整備の拠点として、また、自然との触れ合いの場として整備する。



②人工林の間伐
・伐採木の搬出のための作業道の整備
・自然観察路としても活用
・樹木板など植物植物紹介



③ヒノキの間伐のほか大径木の伐採木を木の駅プロジェクトへ搬入



E. 滝谷上流ゾーン

①人工林の間伐
・作業道の整備、風倒木の除去
②散策道の整備



■目指す里山のイメージ



明るく安全な里山 大径木の伐採・活用 竹林伐採・堆肥利用 共生の学びの場 木の駅プロジェクト

B. 広見寺西ゾーン

①民家に隣接する危険木を伐採する
・民家への倒木の危険性がある大径高木を伐採
・密集した里山の間伐をする
・クヌギ、コナラなどは、シイタケ栽培のホダ木や薪として活用する



C. 広見寺東ゾーン

①竹林整備 (1)
・伐採した竹をチップパーで粉砕
・粉砕した竹パウダーを活用した堆肥づくり
・竹堆肥を地域に配布するとともに有機肥料として販売する。
(里山ビジネスの起業)
②竹林整備 (2)
・継続的な竹林整備をすることでタケノコを収穫する。
(里山イベントとして活用)



D. 東滝の谷ゾーン

①秋の紅葉を楽しめる里山づくり
・除間伐、モミジの植栽
②ヒカゲツツジをはじめ、山野草やキノコを楽しめる里山づくり
③散策道の整備



整備スケジュール

【里山整備】
(全ゾーン)
・危険木の伐採
・木の駅プロジェクト
(滝谷ゾーン・広見寺東ゾーン)
・竹林整備
・竹パウダーの有機肥料化

【地域貢献】
・竹堆肥の地域への配付
・竹堆肥を利用した農産物や園芸への実証実験
・シイタケのほだ木づくり

【自然とのふれあいイベント】
・つる籠づくり
(広見寺東ゾーン)
・自然観察路づくり
・樹木札づくり

【里山整備】
(滝谷ゾーン)
・作業道の整備
・人工林の間伐、搬出
・木の駅プロジェクト
(東滝の谷ゾーン)
・谷川沿いの除間伐
・モミジ等の植樹
・山野草などの植物調査

【地域貢献】
・民有林の請負整備
【自然とのふれあいイベント】
・つる籠づくり
・樹木札づくり
・自然観察路づくり

【里山整備】
(全ゾーン)
・危険木の伐採
・木の駅プロジェクト
(東滝の谷ゾーン)
・散策路の整備

【地域貢献】
・民有林の請負整備
・たけのご掘り
【自然とのふれあいイベント】
・東滝の谷など自然観察会
・つる籠づくり
・樹木札づくり

I期 (2019～2028)

II期 (2029～2038)

III期 (2039～2048)

3-3 バイオマス丹波篠山（森の学び舎）

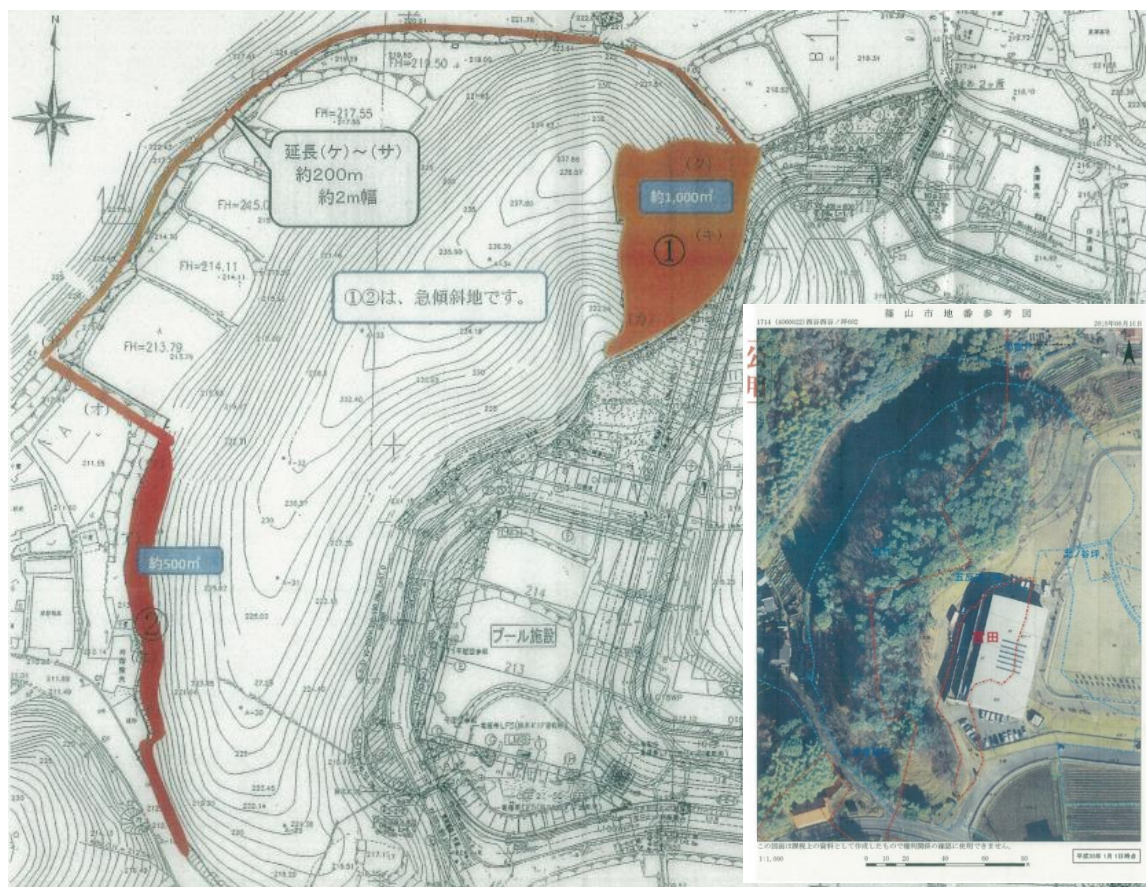
(1) 実績報告

日 時	場 所	出席者（人数）	協議内容
令和元年 8月6日 13:30～	丹波県民局	アドバイザー 県民局 計7人	第2回里山づくりアドバイザー会議 ・各地区昨年度の報告今 ・年度業務委託内容、アドバイザー就任依頼
8月4日 10:00～	西紀運動公園 内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 一般参加 計10名	森のプランニング+ネームプレートづくり ・今後の整備に向けたプランづくり ・樹木のかけるネームプレートづくり
9月22日 10:00～	西紀運動公園 内山林	プロジェクトスタッフ 一般参加 計12名	森のそうめん流し ・竹を伐採しそうめん流し用に加工 ・道の整備
12月8日 10:00～	西紀運動公園 内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 計15名	森の入口と看板づくり ・森の入口に間伐材を使って階段づくり ・間伐した竹を使って飯盒炊爨 ・間伐材を加工して看板づくり
12月21日 10:00～	西紀運動公園 内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 計3名	ひょうごニュース eco フォーム出展 ・パネルによる活動発表 ・ワークショップ
令和2年 1月26日 10:00～	西紀運動公園 内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 一般参加	森のお披露目会(音楽会・写真展・遊び) ・今まで活動に参加された方々や地元の方々を 招いての「お披露目会」を開催。 ・音楽ライブに加え、薪で火を焚いての昼食 ・ワークショップ(今後の森づくりに活用)

(2)「森の学び舎プロジェクト」報告書

1) 基本情報

- 活動場所：篠山市立西紀運動公園横里山(〒669-2721 兵庫県丹波篠山市西谷 602)
- 活動面積：1.8ha
- 所有者：篠山市（教育委員会）
- 主な樹種：ヒノキ、カシ、ナラ、クリ、サカキ、コシアブラなど
- 活動主体：森の学び舎プロジェクト（事務局メンバー6名）
- 活動支援：NPO 法人バイオマス丹波篠山／八百材舎／丹波篠山市



2) 活動目的

森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足。

「八百材舎」のメンバーを中心として、地域住民や学生を交えて篠山の森を森林資源として活用していくための活動基盤を作ることを目的とする。

3) 目標とする森林像

「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。森林の維持管理を積極的に行うことで、森林の地力も再生し防災にも繋がると期待される。

学びの場を提供するための環境を整えるために、地域の方々と共に継続して整備や管理を行う。地域の方々と協働を通じて、地域の方々のこれまでの森林とのかかわりや森林への思い、知恵や技術をうかがい、次世代につないでいきたい。また地域の方々自身も自分たちの地域の森林資源の豊かさや魅力を再認識し、森林にかかわる意欲が高まることも期待する。

地域への活動報告の広報誌などを作成することで、このフィールドでの活動が他の地域へ波及効果をもたらすことも図りたい。

今年度の目標は、森で人が集い、活動できる空間を作ることである。そのためのオープンスペースや林道を整備する予定である。地域の人や学生、様々な分野で活躍する方などを呼び、森のことを学びながらこれからの森の在り方について自由に意見交換をしたい。

4) 里山づくり 30 年計画

中長期的な目標として、5、10、30 年後にどのような森を想定しているかを以下に示す。

<5 年後>

林道などの基盤整備が完了し、フィールドが様々な人が集まる場として機能している。森の望ましい姿を理解し、そのための管理や整備作業を地域の方と協力して行われている。フィールドにかかわる者が森林に関する知識や技術を身につけ、今後さらに活動範囲を広げるための成長の場になっている

<10 年後>

望ましい森林の姿に近づいている。森林の管理や活用体制が整い、資源を有効利用してライフサイクルをまわしている。具体的には、間伐材や腐葉土の利用であったり、季節の果実を収穫したり、普段の生活に密着した森林の使い方が浸透している。フィールドが森のありかたや人間の場について考え学ぶ場として広く認知されていく。

<30 年後>

生態系豊かな森林となり、遊び場や活用の場としていた次世代相（現在の子供たち）が自分たちの子供を連れて森林を案内・活用法を伝授する。

5) 今までの主な活動内容（平成31年・令和元年度）

<6/1：植生調査（協力：兵庫県立淡路景観園芸学校）>

淡路景観園芸学校の岩崎准教授と学生の方々に手伝っていただき、森の中をじっくりと歩きながら植生、生態系、森の課題などなど、様々なことを話し合った。

この調査を通して、この森にはどんな価値があり、これからどのような森づくりを行なっていくのか、を考える指標を作ることになった。（※詳細は、添付資料を参照）



<8/4：植物調査+森のプランニング（協力：兵庫県立淡路景観園芸学校）>

前回の植生調査をもとに、ゾーンごとに詳細な植物調査を行なった。それぞれのゾーンで、子供が遊ぶのに向いたり、紅葉など四季を楽しめたり、モノづくりなどに適したゾーン分けに整理ができ、それに合わせた森づくりを実行していくことにした。



<9/22：森のそうめん流し（竹林伐採と間伐材利用／協力：山口祐助氏）>

前回つくったプランニングをもとに、先ずは入り口付近の竹林が密集した箇所を伐採。それに伴い入り口アプローチをわかりやすくするために階段を設置。また、伐採した竹はそうめん流し台に活用し、参加者みんなで楽しんだ。



<12/8：森の入り口をつくる（引き続き竹林伐採・間伐材利用）>

前回の作業を引き継ぐ形で竹林伐採と、間伐材の再利用に取り組む。間伐した竹は竹ごはん、その他の間伐材は階段作りの材料として利用。入り口が明確になったことで、地元の方々を招く準備が整った。



<12/21：活動のPR（ひょうごユース eco フォーラム@KIITO）>

神戸クリエイティブセンターで開催されたひょうごユース eco フォーラムにて、森の学び舎の活動についてポスターで発表。多くの方々に活動のPRを行い、同世代でのネットワークづくりも出来た。



<1/26：森のお披露目会（音楽会・写真展・遊び）>

今まで活動に参加された方々や地元の方々を招いての「お披露目会」を開催。音楽ライブに加え、薪で火を焚いての昼食、そして各々遊びながら学び舎のフィールドを堪能してもらった。そこで出た意見や感想などを、次年度以降の森づくりに活かしていくことになった。



6) 今年度活動の評価と課題

- 場所：八百材舎 BASE（丹波篠山市倉本 141）
- 日時：2020年2月8日（土）17:00-19:00
- 参加：事務局メンバー3名+アドバイザー

○今年度の活動の評価

- 専門の先生に活動地の山林内の植生調査を依頼し、現在の詳細な植生を見える化し、どの場所のどの植物を除去しどの植物を育てるか整備の方向性を明確にした。これによって、ありがたい森の姿に近づける、効果的な整備を展開することができた。
- 周辺の自治会に協力いただき、活動の告知と報告を随時配布したことによって、地元住民の参加が増え、普段から活動地に足を運ぶ住民もあり、地元住民が愛着を持つ山林へとなりつつある。
- 丹波地域外、都市部からの20-30代の参加者も多く、参加者の地域間、世代間の交流が図られ、地元住民にとっては地域の魅力の再発見とともって魅力を向上させようという意識の醸成、都市部の人々にとっては里山でくらすうえでの知恵や技術を学ぶきっかけの場として機能した。
- 地域の子供連れの方の参加が増え、子どもがふるさとで自然で遊んだり学んだりする場所としても機能し始めた。

○課題

- 参加者がリピーターの方が多く、新規の参加者が少ない。来年度は広報の場所や媒体を拡大し、新しい層に情報を届けるよう力を入れる。
- 地元住民の参加が増えたとはいえ、まだ外部の参加者の方が多い。告知や報告の配布は継続しながら、イベント参加だけじゃない協働のかたち(かつての山林活用の知恵や技術、整備方法への意見のヒアリングなど)も展開していきたい。
- 植生調査に基づいた整備プランをつくったが、整備後の植生の変化についてモニタリングが不足している。来年度、調査から1年後の植生の比較を行い、整備の評価を行いたい。

○今後のあり方

- 来年度も継続して年間6回ほどの森の学び舎を開催する。
- 今年度整備に入れなかったエリアがあり、その部分の下草刈り、除間伐を行う。
- 集落からアクセスしやすい道を新たにつくり、地元住民により活動が見えるように、参加を促進できるように図る。
- 周辺施設へのチラシの設置を増やし、新たな参加者の獲得に力を入れる。

OR2 年度の活動計画

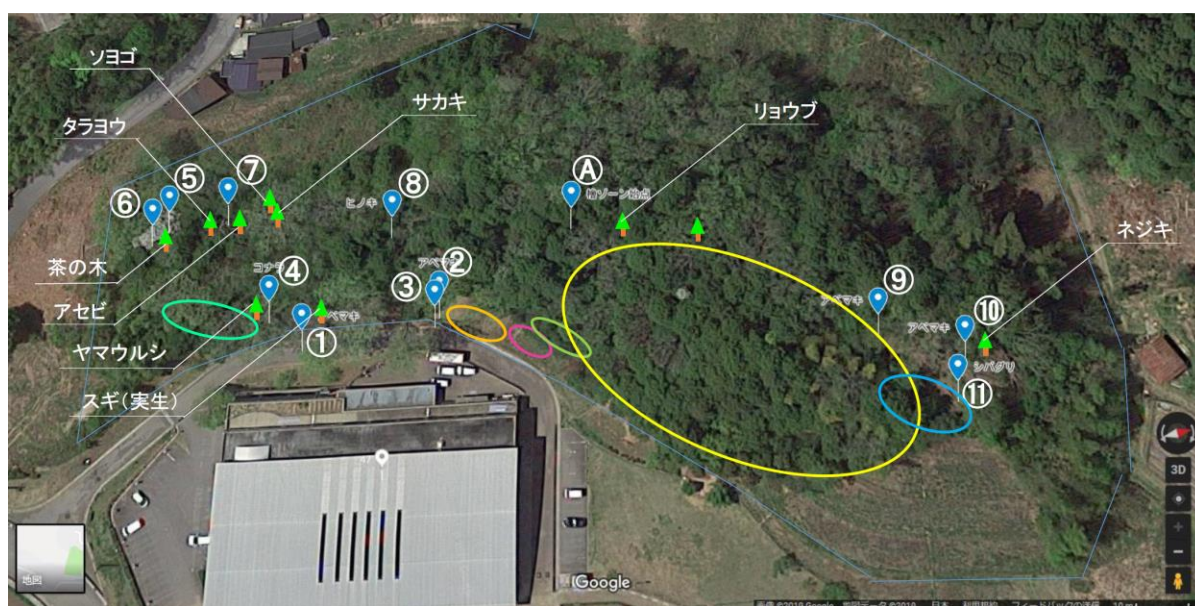
前半

- 4月「湿地エリアの整備」…草刈り、耕す⇒植生の変化を観察
- 5月「たけのこ掘りとちまきづくり」
- 6月「北側の下草刈りと道づくり」…2週連続開催

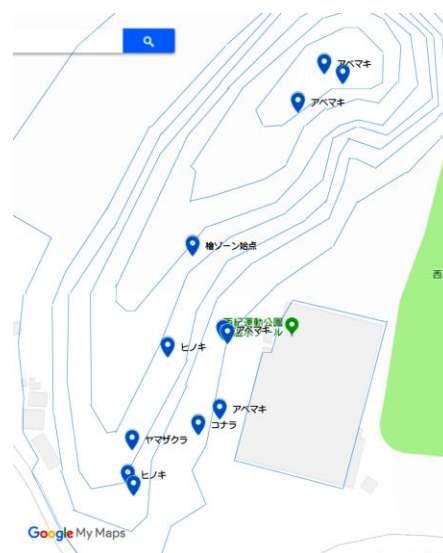
後半

- 「ロープワークとブランコづくり」
- 「演奏会」
- 「デッキづくり」

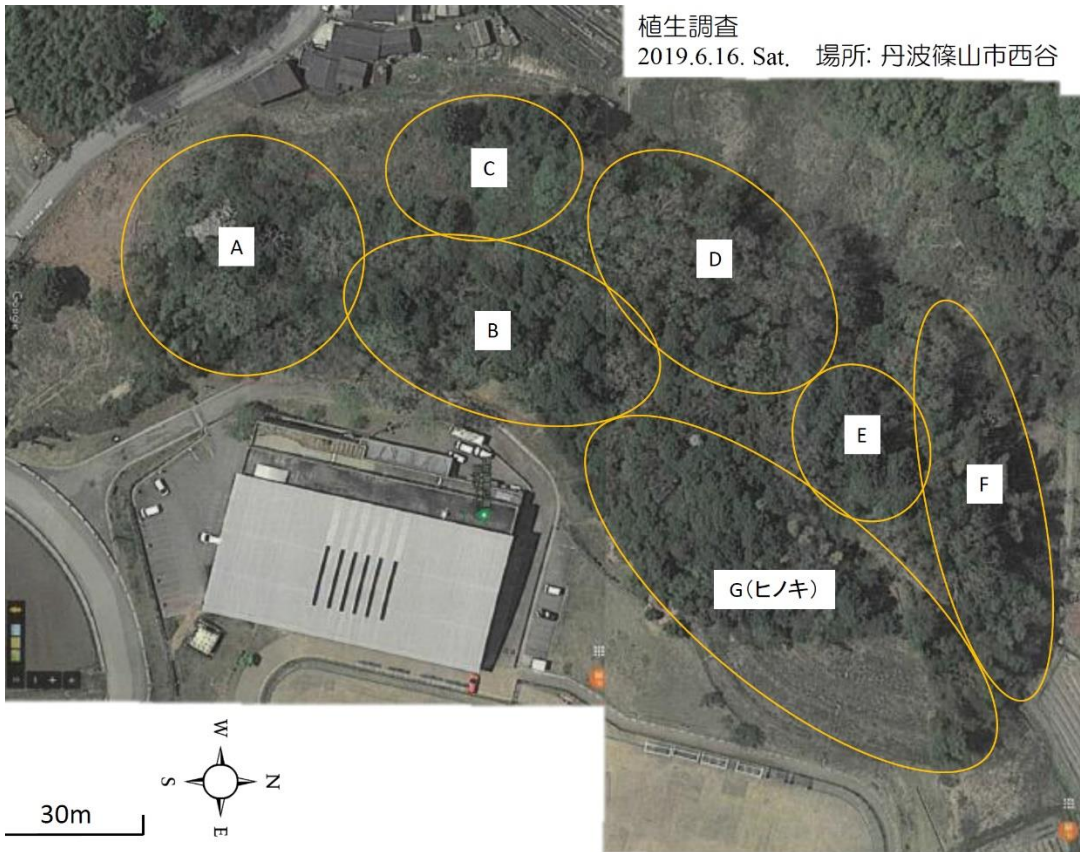
【資料】



- ①アベマキ ②アベマキ ③ヒノキ ④コナラ ⑤ヒノキ ⑥コナラ ⑦ヤマザクラ ⑧ヒノキ
 ⑨アベマキ ⑩アベマキ ⑪シバグリ Aヒノキゾーン始点
 ○メドハギ,ブタナ,シロツメクサ ○サツキ ○アカマツ ○ヒノキ ○マダケ ○シダ



植生調査
2019.6.16. Sat. 場所: 丹波篠山市西谷



【A】	●草本	●低木	●亜高木	●高木(17-22m)
	ノダフジ sp. 1%以下 アオキ 1%以下 ウリカエデ 1%以下 コツクバネウツギ 5%以下 ヒサカキ 10%以下 サルトリイバラ 5%以下 カンサイスノキ 5%以下 ヤマハゼ 1%以下 タラヨウ 1%以下 マンリョウ 1%以下	イヌツゲ 1%以下 ヒサカキ 5%以下 ソヨゴ 5%以下 ササ sp. 10%以下 アオハダ sp. 1%以下 ウリカエデ 1%以下 コバノガマズミ sp. 1%以下 タカノツメ 10%以下 ネズミモチ 1%以下 コツクバネウツギ 5%以下 ヒイラギ 1%以下	ソヨゴ ネジキ マダケ 15% リョウブ ササ	ヤマザクラ sp. 5%以下 ヒノキ 5% コナラ 15% クリ
	●草本	●低木	●亜高木	●高木(17-18m)
ヤマウルシ 5% ソヨゴ 30% ササ 60%~ シダ sp. カエデ? コバノガマズミ モチツツジ コナラ 10% サルトリイバラ ヒイラギ モミジ ヤブコウジ 1%以下 スギゴケ 1%以下	ツクバネガシ ツクバネウツギ アラカシ イヌツゲ サカキ 10% ネムノキ 1%以下	コシアブラ サカキ 10% クリ スギ	ソヨゴ 30% ヒノキ 50~60% コナラ 10% アベマキ 5% シラカシ 1%	
【B】	●草本	●低木	●亜高木	●高木
		ネムノキ	ヒノキ クリ クズ ネムノキ	コナラ クリ

【D】	●草本	●低木	●亜高木	●高木(20-25m)
		ヌルデ 50% ササ 60%~ ウド アカメガシワ ヤマハゼ ノブドウ タラノキ ウワミズザクラ or イヌザクラ ノダフジ アオキ	ソヨゴ ヒノキ リョウブ クリ	アベマキ クリ コナラ
【E】	●草本	●低木	●亜高木	●高木(18-20m)
	アラカン サルトリイバラ カンサイスノキ ヒノキ ヤマウルシ 不明 1 不明 2 ヒサカキ ササ タカノツメ	コバノミツバツツジ ソヨゴ アセビ	ソヨゴ ミヤマガマズミ アカマツ ネジキ リョウブ	コナラ 5% アベマキ ヒノキ 70~80%
【F(ヤキ)】	●草本	●低木	●亜高木	●高木(15-20m)
	コウスノキ sp. 1%以下 アセビ 1%以下 ヤマウルシ 1%以下 アラカン サカキ 1%以下 サカキ 1%以下 タカノツメ 1%以下 コシアブラ 1%以下 ササ sp. ヒイラギ 1%以下 スギ実生 1%以下	コウスノキ sp. 1%以下 ヒサカキ 5~10% アオハダ sp. 1%以下	リョウブ スギ 1%以下	ヒノキ 60% コナラ 5% ツクバネガシ 1%以下



今後 30 年間の整備スケジュール

(2019~2028)

- * 右図のあるような林道、除間伐などの各ゾーンの基礎整備が完了し、人が入り心地よい森となっている。
- * 整備にあたっては、参加型のワークショップを随時実施し、里山整備の知識や技術を学ぶ場として機能させる。
- * 子どもの遊び場や周辺住民の憩いの場として、普段の暮らしの中で活用されるようにする。

(2029~2038)

- * 基礎整備の効果として、植生が多様化している。
- * 山林資源を活用するワークショップを実施し、山林資源活用の知識や技術を学ぶ場として機能させる。
- * この森で里山整備の知識や技術を学んだ人たちが、他の森で里山整備を展開するようになる。
- * 引き続き、子どもの遊び場や周辺住民の憩いの場として、普段の暮らしの中で活用されている。

(2039~2048)

- * 植生が多様化し、暮らしに活用できる森の恵みが豊かになっている。
- * この森で山林資源活用の知識や技術を学んだ人々が、日常的に森の恵みを暮らしに活用している。
- * この森で遊んでいた子供が大人となり、里山整備に携わっている。子どもを連れて森で遊んでいる。

【活動目的】

森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足。

「八百材舎」のメンバーを中心として、地域住民や学生を交えて篠山の森を森林資源として活用していくための活動基盤を作ることを目的とする。



【目標とする森林像】

「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。

森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。森林の維持管理を積極的に行うことで、森林の地力も再生し防災にも繋がると期待される。

3-4 北岡本自治会

(1) 実績報告

日 時	場 所	出席者	協議内容
8月6日 13:30～	丹波県民局	アドバイザー 県民局 計7人	第2回里山づくりアドバイザー会議 ・各地区昨年度の報告今 ・年度業務委託内容、アドバイザー就任依頼
8月29日 19:00～	北岡本公民館	アドバイザー 3人(三役)	・「里山づくり30年計画」策定について 概要イメージで説明 ・協議会設置(北岡本30年の森づくり委員会) ・参加者との意見交換会の日程調整
9月14日 19:00～	北岡本公民館	アドバイザー 委員長他12人	・地域でのこれまでの取り組み振り返り(黒田) ・「里山づくり30年計画」について ・ワークショップ 楽しめる森林整備とは 地域の子供や女性の参加を促進するために 稼げる森林整備(搬出作業スキルアップ)
11月17日 13:00～	北岡本区有林	アドバイザー 委員長他7人	・購入した林内作業車の運転 ・木材搬出、積み込み作業の練習 
12月15日 8:30～	北岡本区有林	アドバイザー 森づくり委員会 委員 地域住民 県・市関係者	・8:30 植樹祭 
令和2年 1月24日	北岡本区有林	アドバイザー 山口指導員 委員長	・小規模林業の学習会の下見として、自伐型林業推進協会の山口雄介氏(丹波篠山市在住)を案内した。
3月21日 (中止)	北岡本公民館	北岡本30年の 森づくり委員会 委員	・ワークショップとともに小規模林業の指導を受けるための学習会。 (※コロナウィルス拡散防止のため中止)

(2) 活動状況

1) 北岡本植樹祭 (令和元年 12月15日)



来賓あいさつ



植樹説明



樹木札の受付



植栽樹木



風倒木の現地説明



植栽活動

2) 樹木の搬出訓練



林内作業車の取扱説明



試運転



試運転



シイタケ栽培

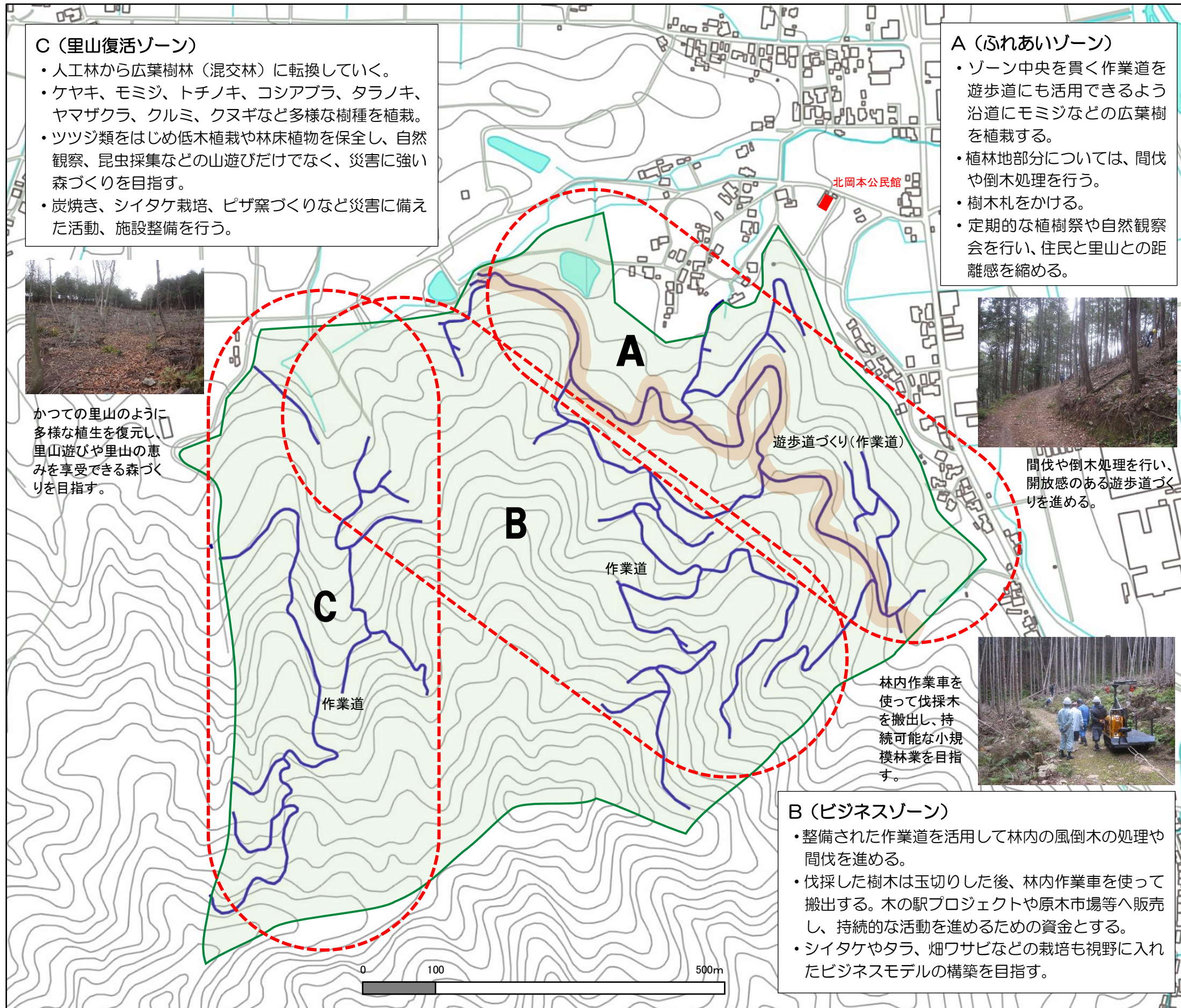


風倒木の移動方法の解説



風倒木の移動

北岡本 30 年の里山づくり（森林の多面的機能を発揮する災害に強い里山づくり）



北岡本 30 年の里山づくり

- 木材生産以外の森林の多面的機能が発揮できる健康的な森づくりを進め、災害に強い里山づくりを目指す。

■1 期（前期 15 年）

【A：ふれあいゾーン】

- 親しみのある遊歩道づくり
 - ⇒下刈り・間伐し、開放感のある雰囲気づくり
 - 紅葉樹や花木を遊歩道沿いに植栽する
 - ⇒イベント等を通して馴染みあるものとする

【B：ビジネスゾーン】

- 小規模林業を推進する
 - ⇒安全な伐採、玉切り、搬出作業等の訓練
 - 伐採・搬出エリアの計画的な実施
 - 材の活用、販売ルート確保

【C：里山復活ゾーン】

- 多様な森林（混交林）に転換する
- かつての里山を復活、復元する
 - ⇒皆伐後、多様な高低木広葉樹を植栽する
 - 林床植物を保全し、災害に強い森づくり

■2 期（後期 15 年）

【A：ふれあいゾーン】

- 親しみのある遊歩道づくり
 - ⇒下刈り・間伐を継続するとともに、日常的な住民利用に対して、適切な維持管理を住民全体で実施する。
 - ⇒健康づくりや自然観察会等のイベントを定期的に実施する。

【B：ビジネスゾーン】

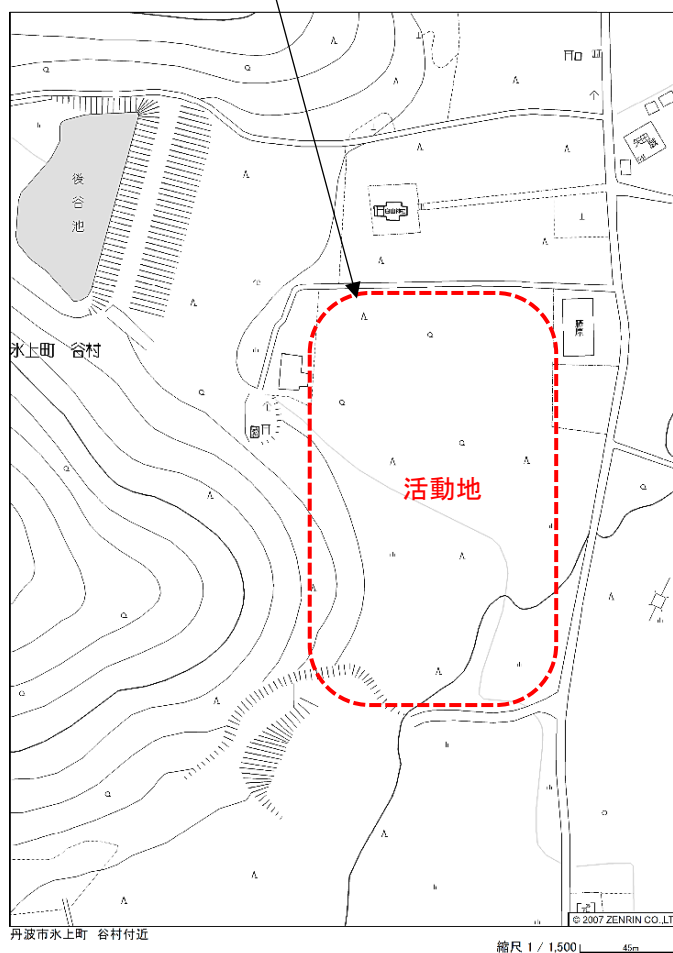
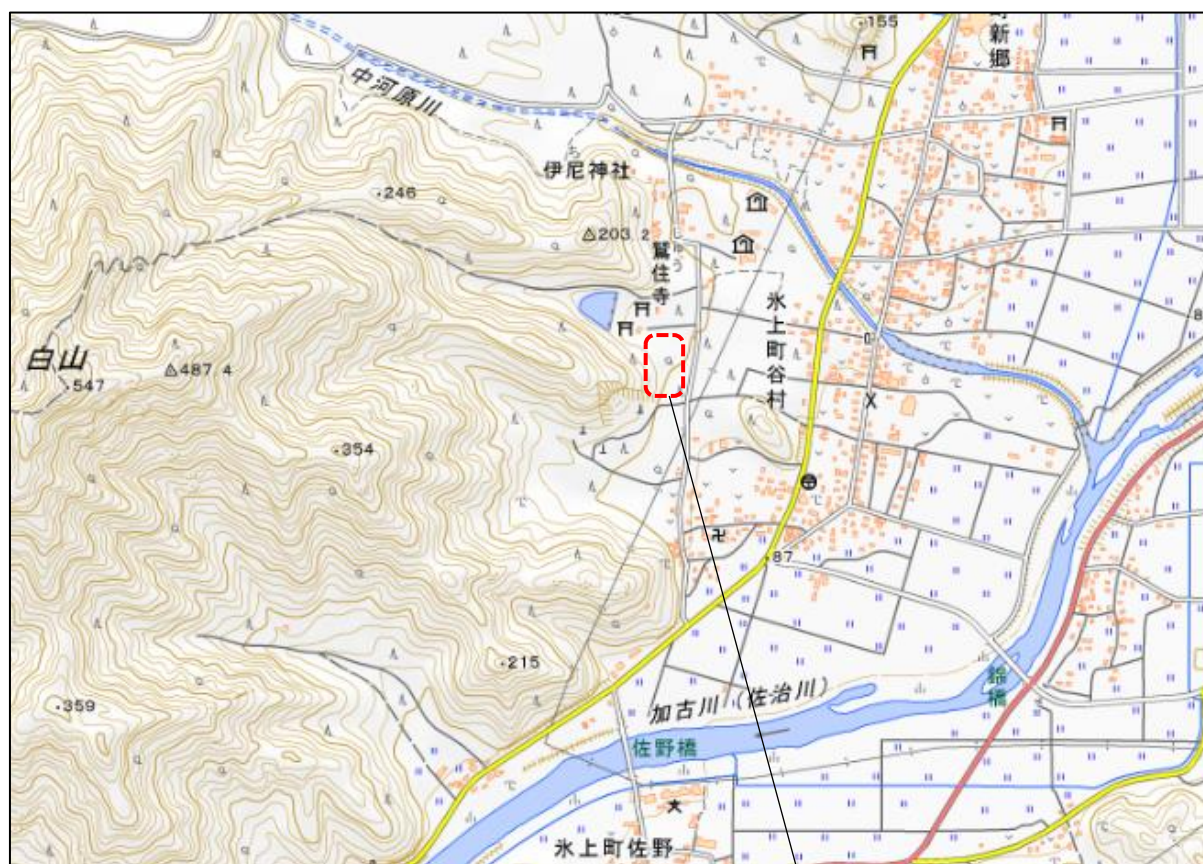
- 小規模林業の確立
 - ⇒作業の分業化、専門化を図り、安全で効率的な小規模林業を確立する。
 - ⇒シイタケ、タラ、畑ワサビ等の栽培をビジネス化する。

【C：里山復活ゾーン】

- 復活した里山、資源の活用
 - ⇒自然観察、昆虫採集等ガイドツアーの実施
 - ⇒様々な里山資源を活用し楽しむ。
 - 炭焼き、ピザ焼き、つる籠などのクラフトづくり、山遊びを行う。

3-5 バイオマスフォーラム丹波

(1) 位置



(2) 実績報告

1) ワークショップ①

- ・日 時：令和元年8月31日、10:00~14:00
- ・場 所：里山ごんげんさん
- ・出席者：NPOバイオマスフォーラム丹波メンバー、一般参加者 計50名
- ・内 容：森のコンサート、クラフト、カフェ
理事会
里山整備のヒアリング（今後の予定）



2) ワークショップ②

- ・日 時：令和元年11月7日 10時~15時
- ・場 所：里山ごんげんさん
- ・出席者：ごんげんさん役員、研修スタッフ、県農林、参加者 計20名
- ・内 容：里山ごんげんさんの概要
里山遊び実習、こどもの遊び場としての整備の実例見学
これからの整備計画

3) ワークショップ③

- 日 時：令和元年 11 月 26 日 9 時 30 分～11 時
- 場 所：里山ごんげんさん
- 出席者：里山育成研修スタッフ、理事長 計 2 名
- 内 容：里山育成研修下見
打ち合わせ（内容確認、昼食の段取り、時間確認など）

4) ワークショップ④

- 日 時：令和 2 年 2 月 1 日 14 時～16 時
- 場 所：里山ごんげんさん
- 出席者：NPO バイオマスフォーラム丹波理事
- 内 容：今後の整備計画の確認
現地の施業場所の決定

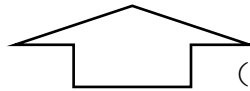
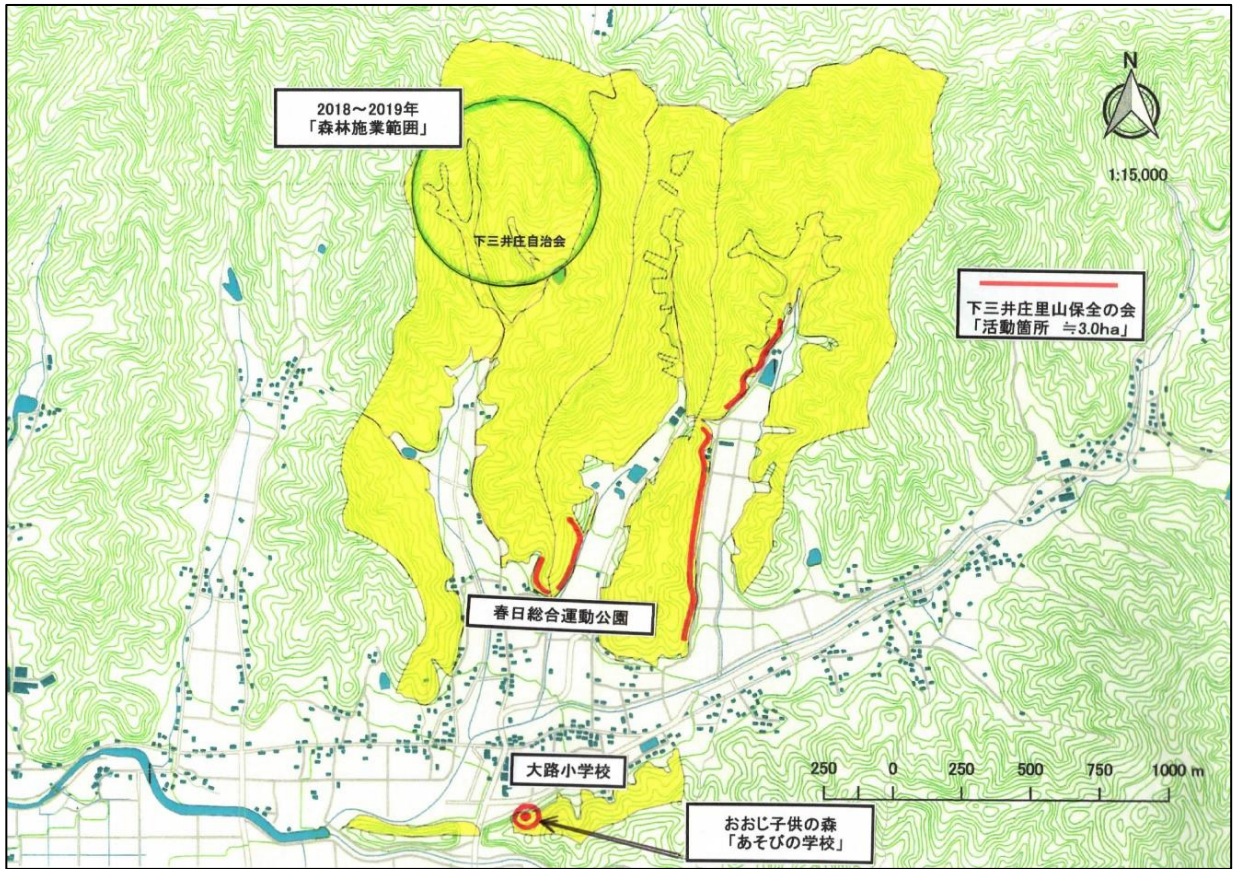


(3) 30年後の森づくり指針

- 現在利用している場所の拡張
- ヒノキの植栽の部分を広葉樹やあそびに利用できる明るい場所に転換
- 果樹や遊びに利用できる木の植栽
- メンバーのチェーンソー講習の実施
- シカ柵の補強
- ヒノキの大径木については業者も検討する

3-6 下三井庄自治会

(1) 位置



(3者共同で里山づくり活動を実施)

下三井庄自治会

下三井庄区林野委員会

- 区有林(共有林・人工林)の管理 ; 通年
 - ・地権者(≒100名) **山林日役**の実施(1日/年); 11月
 - ・2016年探択・2018年~**「森林経営計画」**による**造林事業の実施**(丹波市森林組合)
- 松くい虫特別防除の実施; 5~8月+元気松の植林
- 松茸山**の入札; 9月(入山期間~11月中旬)
- 子供達による**「山の神まつり」**の実施; 11月

モデル事業の展開

- 将来の森林活用に向けた**ゾーニングの実施**
 - ・生産の森・生きものの森・活動の森・水源の森
 - ・**ワークショップの開催**(4月・11月)
- 森林の資源を知り、魅力ある里山づくりへつなげる
 - ・**人が入りたくなる里山づくり、暮らしに森林を活かせる地域**

下三井庄里山保全の会

- 地域環境保全タイプ(**里山整備活動範囲** ≒3.0ha)
- 里山の景観保全
- 自然災害・獣害に強い森づくり
- 森林資源の有効活用(薪づくり)
- 森林作業技術の習得**

大路未来会議

- 大路こどもの森の整備+「あそびの学校」運営**
- 幼児(3歳児)~小学6年生
- 毎月第3日曜日**に「野外活動を中心とした遊び」の実施
- 野草を食べよう**・野外キャンプ・川遊び・ピカピカどろ団子づくり

(2) 実績報告

1) ワークショップ①

- ・日 時：8月23日 19時30分～21時30分
- ・場 所：下三井庄コミュニティセンター
- ・出席者：自治会長・下三井庄里山保全役員・林野委員・大路未来会議役員 計5名
- ・内 容：今年度計画（フォーラムの開催について、全体計画の共有）

2) ワークショップ②

- ・日 時：9月21日 19時30分～21時
- ・場 所：下三井庄コミュニティセンター
- ・出席者：林野委員、里山保全の会メンバー 計7名
- ・内 容：チェーンソー安全基準の改正手について
 - ⇒チェーンソー使用者のチャップス又はチェーンソーズボンを義務づけ
 - ⇒区で貸し出し用を購入伐倒での安全
 - ⇒牽引ロープの使い方（ローピング）、受け口・追い口の確認

3) ワークショップ③

- ・日 時：9月26日 8時～12時
- ・場 所：春日運動公園西側山林
- ・出席者：里山保全の会メンバー 計6名
- ・内 容：手入れの方針（常緑樹を中心に伐採。花木等の広葉樹、落葉樹を残す）
大径木の若返りを図る
樹木、山菜の名前

4) ワークショップ④

- ・日 時：10月8日 20時～22時
- ・場 所：里山保全の会事務所
- ・出席者：里山保全の会役員 計3名
- ・内 容：11月30日里山フォーラム発表打ち合わせ

5) ワークショップ⑤

- ・日 時：11月4日 15時30分～17時30分
- ・場 所：下三井庄山林
- ・出席者：自治会役員、里山保全の会役員、大路未来会議役員 計8名
- ・内 容：・下三井庄「里山づくり ワークショップ」下見、打ち合わせ

場所、時間、植物資源、資料作成、役割分担の確認



6) ワークショップ⑥

- ・日 時：11月7日 9時～12時
- ・場 所：下三井庄山林
- ・出席者：県農林、大路地区自治会、元町マルシェ出荷者等 25名
- ・内 容：資源となる樹木等の説明（ムカゴ、トチ、コウゾ、ケンポナシ、ウド等）
2018～2019年 森林経営計画による森林整備について 丹波市森林組合
運動の整備、間伐材は主にチップに
森林内における野生動物の現状について（講師：岡田博美／猟師）
参加者意見交換



7) ワークショップ⑦

- ・日 時：11月9日 9時～14時里山育成研修講師
- ・場 所：大路こどもの森
- ・出席者：スタッフ・講師・参加者 計25名（里山モデル地区メンバーを含む）
- ・内 容：
 - こどもの森の場所、活動紹介
 - 月1回の遊びの学校の実施
 - ツリーハウス、アースバッグ、遊具の紹介
 - 林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受けている（間伐の実施）
 - 森整備の実例見学
 - ヒノキを伐採してギャップを作ったことにより様々な木が自生してきた
 - 広葉樹の親木を残すことで実生が出てきている
 - ナラ枯れの発生について、カエントケの発生
 - 台風で倒れた木からのナメコの発生
 - 整備活動
 - 萌芽した常緑樹の除去
 - シダや多年生草本の除去



8) ワークショップ⑧

- 日 時：3月8日 9時～12時
- 場 所：下三井庄運動公園横山林
- 出席者：下三井庄里山保全の会メンバー
- 内 容：安全な伐倒の講習
プラロックの用法、スリング、滑車の使い方、ローピング
追口切りの伐倒



9) ワークショップ⑨

- 日 時：3月8日 18時～19時
- 場 所：下三井庄コミュニティセンター
- 出席者：自治会役員、林野委員、里山保全の会役員、大路未来会議メンバー
- 内 容：里山づくり協議会のメンバー確認
30年後の森づくりの指針作り

(3) 30年後の森づくり指針

- 下三井庄林野委員会が行っている松茸山の再生は引き続き行う
 - ヘリコプターに寄る航空防除
 - 兵庫元気松の植栽
- 森林経営計画の間伐終了地のギャップ等を利用してコナラリンに導く施業の実施
 - 残っている大径木の若返りを図る
 - コナラの苗を育て植樹を考える
 - ヒノキの植林地の伐期が近づいているので、その後の施業に繋げる
 - 災害に強い山に誘導する
- 里山保全の会が森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業で手入れしている森林について
 - 山菜など徳用林産物などの樹木を意図的に残す
 - ウコギ科植物など
 - 住民がゆたかさを感じられる山に導く
- 大路未来会議が取り組んでいるこども森は少しずつヒノキを伐採した場所を広げ広葉樹中心の山にみちびく
 - 現在ある広葉樹を親木としてのこす
 - 広葉樹林化の実験場として植物の遷移などを見守る
 - こども達が森林に親しむ場所として整備する（里山保全の次世代を作る）
- 里山づくり協議会を立ち上げ、地域が一体となって里山づくりに取り組む意識を醸成する